令和５年度事務事業評価調書

（１次評価調書）

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	びほろの活力共創事業			課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
				評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費	
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	01	総務管理費	
	施策(中)	０２　まちづくり活動の促進		目	08	住民活動推進費	
	施策(小)	０３　まちづくり活動への反映を意識した研修の実施		大事業	01	住民活動推進事業	
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	ー			
根拠法令等	びほろの活力共創事業補助金交付要綱			経費区分	政策的経費		
事業概要	地域課題の解決や地域の活性化に向けて、町民団体が企画、実施する事業に対し補助金を交付し、活力ある地域社会の実現、地域コミュニティーの活性化を図る。						
事業目的	地域コミュニティ活性化や活力ある地域社会をめざす。						
事業の対象	自治会、ＮＰＯ法人、その他３人以上の町民団体。						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 団体等から提案があった継続事業について補助金を交付。あわせて、新規事業の募集を行ったが、応募がなかった。 【現状と課題】 補助金の目的、事業に求める効果等について周知を図り、町として求める共創事業の考え方に則しているかについて、審査基準等に反映させることが必要。また、補助金終了後の事業継続につなげていくかが課題。						
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	新規事業の応募数及び審査会での認定数が少ない		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,267	1,311	3,800	592	2,300	2,400
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	1,267	1,311	3,000	592	1,800	－
一般財源	0	0	800	0	500	2,400
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,267	1,311	3,800	592	2,300	2,400

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	補助交付件数	目標	件	4	9	9	5	5
		実績	件	4	5	4		
		達成率	%	100	55.56	44.44		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	団体等から提案される事業計画等について、町の活性化を図り広く町民に還元され波及効果もある事業を決定しており妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	地域問題の解決、地域活性化のための事業であり、新規事業は審査において認定しており有効性が高いものを選別できている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	補助金が減額となる中でも継続してきており、町の活性化を図る効果は図られているが、事業後の検証が必要な場合もある。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 対象となる事業について周知を図り、各種団体が制度に則した事業であるか判断しやすいような情報提供をし、事業の採択を図る。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 申請件数の増加を見込み予算額を維持	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	応募者が制度に則した事業であるかの判断が容易にできるよう十分な制度の説明、周知を図り、制度の目的の達成、事業効果が得られるよう、制度活用を広めていく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	児童生徒国内外研修交流事業		課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
			評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	01	総務管理費
	施策(中)	０２　まちづくり活動の促進		目	08	住民活動推進費
	施策(小)	０３　まちづくり活動への反映を意識した研修の実施		大事業	01	住民活動推進事業
事業期間	単年度					
要求区分	休廃止		町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町ふるさとづくり事業の推進に関する規則　美幌町児童生徒国内外研修交流		経費区分	－		
事業概要	次世代を担う児童・生徒の広い視野を養うため、町民団体等が自ら企画・実施をする国内外研修交流事業に要する経費の一部を支援する。					
事業目的	研修を通じて国際的視野を養い、将来のまちづくりを担うことに期待					
事業の対象	小・中・高校生					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町民団体等が自ら企画・実施をする研修交流事業の申請がなく、事業を実施できていない。 【現状と課題】 事業を実施できておらず、見直しを実施。					
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	町民団体が企画・実施する研修交流事業の申請がなく未実施。	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	600	0	0	0
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	0	0	600	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	600	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	国内外研修者数	目標	人	5	5	0	0	0
		実績	人	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	既設団体は町の他の補助金が該当する場合がほとんどであるため、対象となる団体等、事業内容について見直しが必要
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	低い	既設団体等は町の他の補助金が該当する場合がほとんどであるため、対象となる団体、事業について見直しが必要
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	効果的な制度となるよう見直しが必要

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　休止・廃止 事業の見直しにより、令和６年度より国際交流事業の美幌高校生短期留学の対象者を拡大し、美幌高校のみではなく町外の高校生を対象とすることで当事業の目的の達成を達成する。		休止・廃止
予算	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　皆減 国際交流事業の予算を増とする。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	国際交流事業において、児童生徒の国際感覚、広い視野を養うこととする。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	ボランティア活動支援事業	課・グループ名	社会福祉課民生障がい福祉グループ		
		評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx	
施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	xx	
施策(中)	０３　コミュニティ活動の促進		目	xx	
施策(小)	０１　コミュニティ組織や人材の育成と組織の活動支援		大事業	xx	ボランティア活動支援事
事業期間	終期未定	令和３年度 ～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	ボランティア人材の発掘と育成を推進するため、社会福祉協議会が実施するボランティアポイント事業を支援する。美幌町ボランティアセンターに登録した個人・団体が、社会福祉協議会で認定した社会活動等に参加・従事した場合、ボランティアポイントを付与する。付与されたポイントを景品に交換できる。事務経費の２分の1を補助する。				
事業目的	ボランティア人材の発掘と育成				
事業の対象	町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 登録ボランティア数の増加、参加者層が能力的・年齢的にも大幅に増える 【現状と課題】 恒常的な参加者の確保と制度の周知による新規参加の発掘				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	253	221	387	343	397	410
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	253	221	387	343	397	410
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	253	221	387	343	397	410

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 ボランティア参加人数	目標	人	110	200	250	270	300
	実績	人	144	200	250		
	達成率	%	130.91	100	100		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	今後の地域活動の支え手となるボランティアを発掘・育成するためにも必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	能力・年齢を問わずボランティア登録が可能であり、ポイント制度導入により達成感が出ることでモチベーションも維持される。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	高額な景品でないが、登録者増との成果が出ており、経費は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現在、地域の”ささえ手”となるボランティア・社会活動に参加し、ポイントをためると景品と交換することができるボランティアポイント事業（美幌町社会福祉協議会が実施）の支援を行っている。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 今後のボランティア人材の発掘と育成を推進するためにも、今後も継続して予算措置を行う必要がある。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	ボランティア人材を育成するなかで、複数の方がボランティア団体に所属している実態が見受けられることから今後、多くのボランティア人材を確保できるよう事業を見直していく必要がある。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	コミュニティ活動促進事業		課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
			評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	01	総務管理費
	施策(中)	０３　コミュニティ活動の促進		目	08	住民活動推進費
	施策(小)	０１　コミュニティ組織や人材の育成と組織の活動支援		大事業	01	住民活動推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町自治会活動運営等補助金交付要綱美幌町自治会連合会等運営補助金交付要		経費区分	政策的経費		
事業概要	自治会連合会及び単位自治会（66地区）の育成推進や活動しやすい環境整備を行う。					
事業目的	地域コミュニティの活性化や活力ある地域社会を目指して、地域自治会活動の育成推進を図る					
事業の対象	自治会連合会・単位自治会					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 自治会への補助金交付や事業協力及び人的支援を行う					
	【現状と課題】 町内６地区に設立された地区連絡協議会の活動を推進することが必要					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	7,442	9,725	7,515	7,164	7,221	7,221
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	661	2,132	671	671	2,663	－
一般財源	6,781	7,593	6,844	6,493	4,558	7,221
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	7,442	9,725	7,515	7,164	7,221	7,221

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	自治会連合会三役会・理事会開催回数（H31年度まで：町内の全自治会	目標	回	15	15	15	15	15
		実績	回	16	19	13		
		達成率	%	106.67	126.67	86.67		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域コミュニティの核となる自治会を支援することは妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	地域コミュニティに関する支援であるため、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自治会での事業については対象者が身近であり波及効果も高い。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 事業継続のため引き続き各自治会への補助金を交付		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状どおりの事業のため予算額を維持	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	各地区連絡協議会の活動推進のため、自治会連合会として実施する協力体制の構築等の支援を行う。活動に重要な会員の加入率が減少しているため、加入促進の取組として、役場窓口でも自治会加入の受付を行う。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	美幌町ＰＲ動画作成事業		課・グループ名	町民活動課・広報相談グループ	
			評価者名	町民生活部長　関　弘法	
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	01	総務管理費
施策(中)	０５　広報の充実		目	02	広報広聴費
施策(小)	０３　情報提供の多様化に向けた取り組み		大事業	01	広報事業
事業期間	単年度	令和５年度 ～ 令和５年度			
要求区分	新規	町長重点政策	ー		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町のＰＲ動画を作成し、町の魅力に関する情報発信力を強化する。				
事業目的	町のＰＲ動画を作成し町の魅力発信を図るとともに、動画作成のノウハウを活かした情報発信を進める。				
事業の対象	町民、町外者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ＰＲ動画については、現在YouTubeチャンネルで公開中である。 【現状と課題】 町内外へ町の魅力をアピールするコンテンツとして、美幌町移住定住情報サイトに掲載中である。また、申込により無料で利用可能となっており、町内業者等で活用されている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	1,948	1,912	0	0
国支出金	－	－	0	0	0	－
道支出金	－	－	0	0	0	－
地方債	－	－	0	0	0	－
その他	－	－	1,000	1,000	0	－
一般財源	0	0	948	912	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	1,948	1,912	0	0

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	ＰＲ動画の作成	目標	本			1		
		実績	本			1		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町制100周年を機に実施するものである。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	PR動画の作成により、町の魅力の情報発信が強化される。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	撮影機材については、今後の情報発信に活用できる。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　休止・廃止 本事業は令和5年度のみの単年度事業である。			休止・廃止
予算	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　皆減 本事業は令和5年度のみの単年度事業である。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	PR動画を活用した情報発信に努める。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	若者との意見交換事業		課・グループ名	町民活動課広報相談グループ	
			評価者名	町民生活部長　関　弘法	
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	xx
	施策(中)	０６　広聴の充実		目	xx
	施策(小)	０２　町民との意見交換の機会充実		大事業	xx　若者との意見交換事業
事業期間	終期未定	令和５年度 ～ 令和８年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	若者との「びほろ未来ミーティング」の定例会開催を行う。				
事業目的	若者たちとの定期的な懇談から、意見提言等を政策に汲み上げていく。				
事業の対象	若年層				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 今年度は4件の実施があった。 【現状と課題】 基本的には団体等からの申込により開催を行うこととなる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	びほろ未来ミーティングの開催回数	目標	回	1	1	1	1	
		実績	回	0	0	4		
		達成率	%	0	0	400		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	未来を担う若者の声を聞き、まちづくりに反映させることができる。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	対象を若者として意見を汲み上げることはまちづくりを行ううえで有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	費用は掛かっていないため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 事業開催へ向け、広報掲載などの周知活動を行う。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 予算をかけない方法でＰＲを行っていく。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	若者世代が開催しやすいよう、土日の開催についても検討を行う。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	駐屯地強化充実推進事業	課・グループ名	危機対策課危機対策グループ		
		評価者名	総務部長　那須　清二		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり	項	01	総務管理費	
施策(中)	１０　自衛隊美幌駐屯部隊の充実整備	目	11	諸費	
施策(小)	０１　美幌駐屯地の充実整備に向けた陳情・要望活動の推進	大事業	02	駐屯地強化充実推進事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌駐屯地の改編後の体制維持・強化に向けて防衛省及び関係代議士に陳情活動を実施するとともに新編第６即応機動連隊への新たな支援活動を実施する。				
事業目的	部隊の充実整備を図る。				
事業の対象	充実整備期成会及び関係協力団体				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 要望活動及び情報収集並びに賃金、旅費及び賄い料 【現状と課題】 改編後の第６即応機動連隊の要望等を把握し、適時な支援が出来るよう調整していく。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,246	4,350	4,504	4,424	4,508	4,508
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	1,246	4,350	4,504	4,424	4,508	4,508
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,246	4,350	4,504	4,424	4,508	4,508

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	自衛官数	目標	人	800	800	830	840	840
		実績	人	760	820	820		
		達成率	%	95	102.5	98.8		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌駐屯部隊の充実強化のため、陳情要望活動を実施する必要があることから、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	美幌駐屯部隊の充実強化のため、防衛省及び関係国会議員に対して陳情要望活動を実施する必要があることから、適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	美幌駐屯部隊の充実強化のため、陳情要望活動に必要な経費であることから、適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 第５旅団の機動旅団への改編により、美幌駐屯部隊が対象となったことから、改編後の充足に向けて積極的な陳情要望活動を実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 即応機動連隊への改編後の充足に向けて、複数回陳情を実施するなど計画的な陳情要望活動を実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	即応機動連隊への改編後の装備及び隊員増員に向けた陳情要望活動の検討				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	自衛隊退職者就労支援事業			課・グループ名	危機対策課危機対策グループ		
				評価者名	総務部長　那須　清二		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	xx		
	施策(中)	１２　自衛隊美幌駐屯部隊と地域住民との更なる一体感の醸成		目	xx		
	施策(小)	０１　自衛隊協力諸団体との連携		大事業	xx	自衛隊退職者就労支援事	
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	自衛隊退職者への就労支援を実施する。						
事業目的	責任感や協調性、判断力などの素養が身についている自衛隊退職者は、厳しい教育訓練や災害派遣など様々な職務を通じた豊富な経験があり即戦力として期待でき、また自治会活動や各種スポーツ指導、まちづくり活動の担い手として必要不可欠な人材であることから、地元就職の斡旋など地域全体で自衛隊退職者を支える取り組みを進める。						
事業の対象	自衛隊退職者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 地元居住者は地元に就職したいため、更に取り組みを進める。 【現状と課題】 地元に就職出来ない隊員が発生する場合もあるため、適時に地元企業の説明会や求人情報等を提供する必要がある。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	就職希望かつ美幌居住者で美幌の企業への就職者数	目標	人	9	5	5	5	5
		実績	人	4	8	6		
		達成率	%	44.44	160	120		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地元に定住している隊員は地元で働けることを求めており、次世代の担い手としての人材でもあるため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	地元就労のためには、就労情報等の提供が必要であり、適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	就労後においては、即戦力として活躍できる退職者も多く、効率的である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 美幌駐屯地援護センターとの情報交換を密にするとともに適材適所に配置できる退職自衛官をPRする。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	救護センター及び会議所との情報交換を実施し、地元退職者の希望に沿う形で進めていく。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	情報発信推進事業		課・グループ名	町民活動課・広報相談グループ	
			評価者名	町民生活部長　関　弘法	
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx
	施策(大)	０１　町民との協働によるまちづくり		項	xx
	施策(中)	１３　町の知名度向上に向けた情報発信		目	xx
	施策(小)	００		大事業	xx　情報発信推進事業
事業期間	４年度	令和５年度 ～ 令和８年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	町のできごと等の動画を制作し、YouTubeを使用して情報発信を行う。				
事業目的	情報発信を積極的に行い、美幌町の知名度を向上させる。				
事業の対象	町民及び町外者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 22本の動画を制作し、情報発信を行った。 【現状と課題】 現在は町のイベント等の情報発信で町外者へのＰＲを行い美幌町の知名度向上に努めているが、今後は町の政策や考え方等の発信も検討する。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	－	－	0	－
道支出金	－	－	－	－	0	－
地方債	－	－	－	－	0	－
その他	－	－	－	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	動画の作成	目標	本			24	24	24
		実績	本			22		
		達成率	%			91.67		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	情報発信は町が自ら行うものであり、妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	町の情報を町内外へ向けて発信することは、町の知名度向上に有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	費用は掛かっていないため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 動画の継続的な制作に加え、YouTubeチャンネルの認知度向上のために広報掲載などの周知活動を行う。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 予算をかけずに発信を行っていく。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		イベントのレポートだけでなく、事前周知の手段としての活用を検討する。	

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	ふるさと寄附金事業	課・グループ名	政策推進課政策統計グループ
		評価者名	総務部長　那須　清二

総合計画		予算科目		
基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	款	02	総務費
施策(大)	０２　持続可能な行財政システムの確立	項	01	総務管理費
施策(中)	０５　健全な財政運営の推進	目	05	企画費
施策(小)	０２　財政基盤の強化と効率的な財政運営	大事業	01	政策推進事業

事業期間	終期未定	平成２０年度 ～	
要求区分	継続	町長重点政策	○
根拠法令等	「ふるさとを思う　こころが届く　美幌町ふるさと寄附金」取扱要綱	経費区分	政策的経費
事業概要	ふるさと納税制度を活用した事業推進策として、返礼品の充実による寄附金額の向上及び取扱事業者の売上向上、更には寄付金を活用した事業（寄附金充当事業）の丁寧な説明と内容充実によって、寄附者に対して、返礼品から寄附金充当事業まで広く町の魅力をＰＲし、更なる美幌町のファンづくり拡大と関係人口創出を図る。		
事業目的	ふるさと寄附金の増収と寄附金活用事業充実による特色ある魅力的なまちづくり		
事業の対象	町外者（ふるさと寄附金対象者）		
実施結果・現状と課題	【実施結果】 寄附金額・寄附件数ともに増加傾向にあり、更なる増加に向けポータルサイトの充実を図った。 【現状と課題】 事務処理の効率化及び安定的な体制づくりと確立（行政、中間事業者、町内事業者の更なる連携体制の構築）		
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－
左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	192,526	416,820	400,692	423,229	500,196	550,000
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	192,323	416,820	400,692	423,229	500,196	550,000
一般財源	203	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	192,526	416,820	400,692	423,229	500,196	550,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	寄付件数	目標	件	10,000	15,000	40,000	40,000	44,000
		実績	件	15,929	40,034	35,384		
		達成率	%	159.29	266.89	88.46		
指標2	寄附金額	目標	千円	60,000	150,000	400,000	500,000	550,000
		実績	千円	192,044	408,249	423,167		
		達成率	%	320.07	272.17	105.79		
指標3	寄附金活用事業の庁内募集枠	目標	千円		10,000	10,000	10,000	10,000
		実績	千円		3,680	1,600		
		達成率	%		36.8	16.0		

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町の財源確保対策及び町のＰＲを行う上からも妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	ポータルサイト及び特設サイトを核とした各種PRや返礼品の充実により、寄附件数及び寄附額が増加傾向にあり、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	寄附受付から謝礼品の発送までを一括して外部委託し、効率的な事務を実施していることから、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 民間事業者との連携の下、SNSや広告等による情報発信による本町特産品の認知度向上や返礼品の更なる充実を図りつつ、リピーターを含んだ寄附者確保に取り組み、更なる事業推進を図る。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 SNS、広告等による情報発信や返礼品の充実による寄附者数及び寄付額の増加を見込み、返礼品等の経費増に対応するため、予算を拡充する。	予算反映額（概　算）	99,504千円	
今後の改善点	ポータルサイト及び特設サイトを通じた更なる情報発信及び民間事業者（謝礼品取扱事業者及び中間事業者）との連携体制の確立。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	広域連携事業		課・グループ名	社会福祉課・民生障がい福祉グルー		
			評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx	
	施策(大)	０２　持続可能な行財政システムの確立		項	xx	
	施策(中)	０９　広域行政の推進		目	xx	
	施策(小)	０１　広域連携事務事業の更なる推進		大事業	xx	広域連携事業
事業期間	終期未定	令和５年度 ～ 令和８年度				
要求区分	新規	町長重点政策	○			
根拠法令等	障害者総合支援法		経費区分	政策的経費		
事業概要	障がいのある方の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するため、基幹相談センターを定住自立圏（１市４町）の枠組みにより設置し、当事者や家族、障がい者施設や自治体など、関係機関から日常生活のさまざまな相談を受付している。 また、グループホームの空き室状況の把握や緊急時の短期入所の調整、人材の育成を行っている。					
事業目的	障がい者福祉分野における、広域での連携や障がい福祉全般の支援について検討を行う。					
事業の対象	障がい者等					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 基幹相談センターを定住自立圏（１市４町）の枠組みにより設置し、障がいのある方を地域全体で支えるため、地域生活支援拠点の機能を面的に整備している。 【現状と課題】 町内の事業所や施設だけでは、障がい者への支援が充足されていないため、広域で設置している基幹相談センターとの連携が必要と考える。					
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	施設整備など、どのようなニーズがあるのか、関係者から意見を聞くなど、調査を行いながら進めていく必要がある。	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	－	－	0	－
道支出金	－	－	－	－	0	－
地方債	－	－	－	－	0	－
その他	－	－	－	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	基幹相談支援センター数	目標	ヶ所		2	2	2	2
		実績	ヶ所	2	2	2		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	今後の障がい福祉全般支援の検討を行うためにも必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	相談などを通じ、必要なサービス等へつなげているため、有効性及び効率性がある。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	相談などを通じ、必要なサービス等へつなげているため、有効性及び効率性がある。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 次年度も引き続き、障がい福祉全般支援の検討を行っていく。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 今後の大枠の考えが確定した段階で予算計上を行っていく。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	今後も基幹相談センターを広域（定住自立圏の枠組み）で運営しながら、支援内容を拡充していく必要がある。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	広域連携事業		課・グループ名	政策推進課政策統計グループ	
			評価者名	総務部長　那須　清二	
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02　総務費
	施策(大)	０２　持続可能な行財政システムの確立		項	01　総務管理費
	施策(中)	０９　広域行政の推進		目	05　企画費
	施策(小)	０１　広域連携事務事業の更なる推進		大事業	03　広域連携事業
事業期間	終期未定				
要求区分	継続		町長重点政策	○	
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	地域の活性化、広域的な課題に対する要望事項の調整や近隣市町との相互支援、連携の充実を進める。 また、管内市町村との連携によりオホーツクイメージの発信を推進するとともに、北見地域定住自立圏をはじめとした圏域での業務連携の更なる検討を行う。				
事業目的	広域連携事務・事業の連携及び強化を図ることにより、行政課題の解決や管内市町村などとの振興を図る。				
事業の対象	美幌町、管内市町村の住民及び行政機関。				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 管内市町村による協力連携事業の実施。 【現状と課題】 新たな連携や業務拡大の検討が進んでいない。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	316	266	558	345	597	597
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	316	266	558	345	597	597
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	316	266	558	345	597	597

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	定住自立圏協定に基づく連携事務	目標	件	1	1	1	1	1
		実績	件	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	広域連携による効率的・効果的な行政運営は、持続可能な行政運営のため実施すべきであることから妥当
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	上記同様、関係自治体で事業評価をしながら適切な手段として実施するため、実現すれば有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	上記同様、検討する時間は要するが実現した場合は、効率性も含めて検討しているため、高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 管内及び管外の自治体との広域連携を継続する。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 新規事業等もないため予算についても現状維持。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	関係自治体と意見交換を通じた広域連携事業の方向性検討			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	国際交流事業	課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
		評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０３　国際・国内交流の推進	予算科目 項	01	総務管理費	
施策(中)	０１　国際交流の推進	予算科目 目	05	企画費	
施策(小)	０２　友好姉妹都市を中心とした、地域間交流活動の充実	予算科目 大事業	05	国際交流事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町ふるさとづくり事業の推進に関する規則　美幌町高校生短期交換留学事業	経費区分	政策的経費		
事業概要	国際交流を推進するため、友好姉妹都市ケンブリッジとの交流を実施。ケンブリッジ高校と美幌高校との短期交換留学事業（新型コロナにより令和2年度以降未実施）、ケンブリッジ訪問団事業（令和4年10月姉妹都市調印25周年）を実施。また、次代を担う児童・生徒に対し、国外交流の推進を図る。 (1)美幌高校生短期交換留学事業 (2)ケンブリッジ訪問団事業				
事業目的	友好姉妹都市との交流及び児童・生徒の国外交流により、将来のまちづくりに資する人材育成につなげる				
事業の対象	姉妹都市ケンブリッジと美幌町民及び美幌高校生、町内の児童・生徒				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 コロナ禍により中止していた美幌高校生短期留学事業を再開、ケンブリッジ訪問団事業を実施した。 【現状と課題】 美幌高校生の短期留学及びケンブリッジ訪問団事業により、友好姉妹都市との交流を再開した。今後も交流・留学が継続できるよう、訪問団の受入れ等による相互交流を図る。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	20	4,529	3,917	4,016	3,030
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	20	3,000	3,000	3,000	－
一般財源	0	0	1,529	917	1,016	3,030
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	20	4,529	3,917	4,016	3,030

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	高校生による友好姉妹都市間の交流	目標	人	2	2	2	4	4
		実績	人	0	0	2		
		達成率	%	0	0	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	人的交流として高校生短期交換留学が実績を重ねており、事業として妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	高校生短期留学については、将来のまちづくりに資する人材育成という点で有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	高校生短期交換留学については、負担額は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 高校生短期交換留学事業の対象を美幌高校生のみから拡大し、町外高校へ通学する生徒も対象として実施する。また、ケンブリッジ訪問団の来町に伴う事業を実施する。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 例年の美幌高校生２名から対象を拡大し、町外高校へ通学する生徒２名の計４名を派遣する。また、ケンブリッジ訪問団の来町に伴う事業を実施する。	予算反映額（概　算）	99千円	
今後の改善点	高校生短期留学事業は、対象を拡大したため継続できるよう推進していく。 訪問団の受入れ体制を整え、関係者とも協議し計画的な交流事業を進める。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	移住定住促進事業	課・グループ名	政策推進課政策統計グループ		
		評価者名	総務部長　那須　清二		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０３　国際・国内交流の推進	項	01	総務管理費	
施策(中)	０３　移住･定住の推進	目	05	企画費	
施策(小)	０１　移住･定住受け入れ体制の推進	大事業	01	政策推進事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	特設サイトをはじめとしたプロモーション、移住相談拠点施設「KITEN」及び移住体験住宅の利用を通じた生活体験により、移住相談から生活体験、完全移住へと段階的な取り組みを実施する。また、移住相談拠点施設を活用したワーケーションや企業のサテライトオフィス利用などを民間事業者と協働により事業推進し、関係人口・協働人口の創出を図る。				
事業目的	移住相談・体験移住を通じた移住者の増加 関係人口・協働人口の創出・拡大				
事業の対象	移住に関心があるまたは、検討されている方				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 移住相談拠点施設「KITEN」の開設後、利用者数は順調に推移しており、道外の利用者も着実に増えている。 【現状と課題】 民間事業者と一体となった移住希望者への支援体制や企業の施設利用促進に向けたプロモーションの手法				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	18,854	120,515	23,581	25,197	28,657	28,657
国支出金	0	76,394	0	0	0	0
道支出金	400	5,000	2,700	1,100	2,700	2,700
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	3,163	22,441	8,500	8,535	4,500	4,500
一般財源	15,291	16,680	12,381	15,562	21,457	21,457
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	18,854	120,515	23,581	25,197	28,657	28,657

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 移住相談件数	目標	件	70	70	70	100	100
	実績	件	138	93	151		
	達成率	%	197.14	132.86	215.71		
指標2 移住体験者	目標	組	5	10	10	10	10
	実績	組	3	16	15		
	達成率	%	60	160	150		
指標3 移住相談窓口を通じた移住者	目標	人	3	3	5	5	5
	実績	人	7	8	4		
	達成率	%	233.33	266.67	80		

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	人口減少対策の観点から妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	完全移住いただくための手段としては、段階的に移住相談・体験移住と設定することが手段として適切であり、高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	財政支援も現在は豊富にあり、ある程度の税投資は認められるが、完全移住者数だけで判断した場合の効率性は検討必要あり。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 移住イベント参加者など現役世代の移住関心度が高まっていることから、移住相談拠点施設の開設を契機に更なる事業推進と安定的な体制づくりのため、民間事業者との協働による事業推進を図る。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 民間事業者と協働による移住相談体制の構築、移住相談拠点施設の運営に加え、関係人口の創出に取り組む。	予算反映額（概　算）	5,076千円	
今後の改善点	民間事業者と連携した移住相談体制の構築及び移住検討者等に対する情報発信の在り方			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	美幌ふるさと会の拡充		課・グループ名	総務課総務グループ		
			評価者名	総務部長　那須　清二		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx	
	施策(大)	０３　国際・国内交流の推進		項	xx	
	施策(中)	０４　美幌ふるさと会の充実		目	xx	
	施策(小)	００		大事業	xx	美幌ふるさと会の拡充
事業期間	終期未定	～ 令和８年度				
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌に縁のある、縁のあった人達やこれから地域に関わってくれる人達の美幌町に対する想い、貢献しようとする人々の動きを積極的に受け止め、美幌町と積極的なつながりを持つ機会を提供することで関係人口を増やし、美幌ふるさと会を拡充する。					
事業目的	ふるさと会への出席、特産品の提供をはじめとした支援や、情報交換などの相互交流を実施することで、首都圏や札幌圏における町のＰＲ活動基盤や人的ネットワークが構築され、地域課題を解決するとともに、地域活性化や誇りと愛着あるまちづくりにつなげる。					
事業の対象	ふるさと会（東京美幌会、さっぽろ美幌会）					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ふるさと会の総会・懇親会が、４年ぶりに開催され、懇親会での特産品のＰＲや移住定住促進のＰＲ、ふるさと納税のお知らせなどを配布し、情報交換などの相互交流を実施した。 【現状と課題】 美幌町の関係人口創出のため、新規会員について、広報やＨＰ等で継続的に周知を図っているが、会員数の伸び悩みを抱えており、ふるさと会の活動事業以外の手段も含めて検討する必要がある。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	0	0	－	0	－
道支出金	－	0	0	－	0	－
地方債	－	0	0	－	0	－
その他	－	0	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	ふるさと会活動参加者数	目標	人	145	150	150	150	
		実績	人	0	0	135		
		達成率	%	0	0	90		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	ふるさと会の総会・懇親会が年に１度開催され、美幌町と継続的なつながりを持つ機会があるため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	「ふるさと応援隊」のような取組で、地域を限定せず、全国から若年層など世代を越えて想いを持つ者とつながる取組が必要。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	総会・懇親会の開催時に、地元の品、ふるさと納税のお知らせ等を配布し、一定程度の費用対効果があるため、適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 首都圏や札幌圏で開催する美幌町関連イベント当の協力や案内、美幌町との継続的な関わり（参加機会）を提供することで、現在の関係性の継続、美幌町への関心・理解度の深化を図り、新規会員については、広報やＨＰ等で継続的に周知を図り、会員募集に努める。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		美幌町の関係人口創出のため、ふるさと会との関係性を継続し、関係する企業との連携など、その他の手段も含めて、取り進める必要がある。	

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	自転車用ヘルメット着用促進支援事業			課・グループ名	町民活動課・町民活動グループ		
				評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０４　地域の安全対策の充実		項	xx		
	施策(中)	０２　交通安全活動の推進		目	xx		
	施策(小)	０１　交通安全啓発活動の充実		大事業	xx	自転車用ヘルメット着用	
事業期間	終期未定		令和５年度 ～				
要求区分	継続		町長重点政策	ー			
根拠法令等	道路交通法			経費区分	政策的経費		
事業概要	町内小中学校の児童生徒に対し、自転車用ヘルメットを無償提供する。令和５年度に全小中学生への配付終了により、令和６年度以降は新小学校１年生への配付及び子ども用サイズから大人用サイズへの更新を行う。						
事業目的	自転車用ヘルメットを無償提供することにより着用促進を図るとともに交通安全に対する意識の醸成、自転車交通事故の7割を占める頭部損傷を防ぎ、自転車交通事故の被害を抑制する。						
事業の対象	町内小中学校の児童生徒						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 自転車用ヘルメットの配付により、交通ルール遵守の意識醸成と自転車乗車時に子ども達の頭部の保護ができた。 【現状と課題】 令和６年度から中学校の自転車通学時にはヘルメット着用が必須となるため、着用促進に向けた取り組みが必要						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	7,346	5,241	553	1,323
国支出金	－	－	－	0	0	－
道支出金	－	－	－	0	0	－
地方債	－	－	－	0	0	－
その他	－	－	－	5,241	0	－
一般財源	0	0	7,346	0	553	1,323
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	7,346	5,241	553	1,323

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	自転車用ヘルメットの配付個数	目標	個			1,137	109	200
		実績	個			1,221		
		達成率	%			107.39		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	小中学生を自転車事故から守るため町がヘルメットを無償配付することは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	自転車事故から児童生徒の頭部を守ることができるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	全ての児童生徒に着用の機会を与えており適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 新小学校１年生への配付や転入者及び子ども用サイズから大人用サイズへの更新を行う。				改善
予算	○　拡充　○　現状維持　●　縮小　○　皆減 一斉配付は完了したが、新小学校１年生、転入者、大人用への更新を行うため予算規模を縮小し現状維持。	予算反映額（概　算）	△6,793千円		
今後の改善点	ヘルメットの配付とあわせ、着用促進を図る。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	高齢者交通安全推進事業	課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
		評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画 基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０４　地域の安全対策の充実	項	01	総務管理費	
施策(中)	０２　交通安全活動の推進	目	07	交通安全費	
施策(小)	０３　高齢者の交通安全対策の推進	大事業	01	交通安全対策推進事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町高齢者等運転免許自主返納支援事業実施要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	運転に不安のある高齢者等の運転免許証自主返納を奨励し、高齢者等の加齢による筋力・認知機能等の低下による交通事故防止を推進し、町内路線バス・申込バス・タクシーの共通助成券の交付により公共交通の利用増進を図る。				
事業目的	高齢者等の交通事故防止を推進するため、運転免許の自主返納を奨励する。				
事業の対象	65歳以上又は障害者手帳を持っている方の自動車運転免許の自主返納者又は免許失効者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 公共交通バス・タクシー利用券の交付 【現状と課題】 自主返納は定着してきているが、全国的には変わらず社会問題となる重大事故が相次いでいる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,700	1,036	3,419	1,923	2,700	2,700
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	1,700	987	3,320	1,825	2,700	－
一般財源	0	49	99	98	0	2,700
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,700	1,036	3,419	1,923	2,700	2,700

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	免許自主返納者及び免許失効者の申請数	目標	件	140	160	160	160	160
		実績	件	85	118	96		
		達成率	%	60.71	73.75	60		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者の事故防止のために町が補助することは妥当
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	高齢運転者やその家族など、高齢者の交通事故を考える機会と交通事故防止に有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自主返納の契機となっており、返納時１回限り助成で適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 令和４年度から助成額を２万円から２万４千円に拡充し、引き続き制度の周知を行い高齢者の自主返納を奨励し、交通事故防止を推進する。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 助成券の使用枚数により各交通事業者から請求を受け、支払いするため現状維持。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	高齢者による事故が多発している中、より一層住民への周知を行い制度の利用促進を図る。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	公共交通維持確保改善事業		課・グループ名	町民活動課町民活動グループ		
			評価者名	町民生活部長　関　弘法		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０５　公共交通の充実		項	01	総務管理費
	施策(中)	０１　総合的な公共交通体系の構築		目	06	辺地対策費
	施策(小)	０１　交通網形成における協議・検討		大事業	01	生活バス路線等維持事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等	地域公共交通活性化再生法、道路運送法		経費区分	政策的経費		
事業概要	路線バスや乗合タクシーに対する赤字補てん補助により路線を維持し、デマンドバスの運行により路線バスの効率的な運行や、運行区域の拡大により町民が移動する際の公共交通機関の確保を図る。 北海道鉄道の利用者に対し助成を行い、鉄道の利用促進を図ることにより支援及び路線維持を図る。 美幌町地域公共交通活性化協議会を開催し、地域公共交通計画に基づき公共交通の充実を図る。					
事業目的	公共交通路線の路線維持・充実					
事業の対象	美幌で路線運行しているバス・タクシー・鉄道事業者、美幌町地域公共交通活性化協議会					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町内路線を運行するバス会社・タクシー会社に補助金交付。美幌町地域公共交通活性化協議会へ負担金支出。公共交通運転手確保のため支援策を実施。 【現状と課題】 地域公共交通計画に基づき、路線バスの見直し、デマンドバスの導入によりバス運行地域の拡大を図るとともに、効率的な運行を図る。運転手確保支援策により運転手の確保を図る。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	43,522	38,687	42,217	40,985	56,783	56,783
国支出金	0	7,021	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	1,132	15,068	15,477	30,200	－
一般財源	43,522	30,534	27,149	25,508	26,583	56,783
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	43,522	38,687	42,217	40,985	56,783	56,783

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	運行バス路線	目標	本	6	6	6	6	6
		実績	本	6	6	6		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	公共交通の路線を維持することは必要であり妥当
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	公共交通の路線を維持するための補助であり有効
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	国からの補助もあり、経費は適正である

次年度の取組の方向性・改善内容				
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 地域間幹線系統路線、地域内フィーダー系統路線、町単独補助路線に対し生活バス路線運行維持費補助金を交付。デマンドバス運行によりバス運行地域の拡大を図り、効率的なバス運行をする。運転手確保支援、地域おこし協力隊制度を利用し運転手の確保を図る。			評価結果
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 燃料高騰による補助額の増、デマンドバス運行に伴う増額。	予算反映額（概　算）	0千円	現状維持
今後の改善点	国・道の補助が安定的に継続されることが路線維持確保の前提のため、国の動向を情報収集する。運転手確保支援、地域おこし協力隊制度による運転手の確保により、公共交通の維持確保を図る。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	防災物資等整備事業		課・グループ名	危機対策課危機対策グループ		
			評価者名	総務部長　那須　清二		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０７　防災体制の強化		項	01	総務管理費
	施策(中)	０１　防災体制の充実、強化		目	11	諸費
	施策(小)	０２　備品の整備や訓練による防災意識の向上、体制の強化		大事業	01	防災対策事業
事業期間	終期未定		平成２５年度 ～			
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等	災害対策基本法、水防法、災害救助法、河川法、美幌町災害時備蓄計画		経費区分	投資的経費		
事業概要	地震・大雨などの災害に備え、現在保有している防災資機材では十分と言えないことから地域防災計画及び災害時備蓄計画を基に計画的に整備する。また、転入者に対する防災意識の向上を目的とした非常用持出品の配布について、今後も継続した普及・啓発を推進する。					
事業目的	災害時に必要とされる資機材・保護具・安全具の整備充実を図る。					
事業の対象	避難所（避難所を利用する避難者）、町民、災害対応職員					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 必要とされる資機材等についての検討・購入を図る。 【現状と課題】 災害時備蓄計画に基づいた防災資機材の整備が進んでいる。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	11,361	61,157	5,724	4,168	3,117	3,253
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	500	3,100	1,800	1,800	600	1,000
地方債	3,500	52,700	0	0	0	0
その他	1,400	0	1,000	1,000	500	0
一般財源	5,961	5,357	2,924	1,368	2,017	2,253
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	11,361	61,157	5,724	4,168	3,117	3,253

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	災害時備蓄計画に基づく備蓄状況	目標	%			100	100	100
		実績	%			100		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	避難所で使用する資機材については、町が整備する必要があるため。また、非常用持出品の配布については、町民の防災意識の向
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	避難所や災害対応職員を対象に必要とされる資機材を年次的に整備することが必要なため。また、全町民向けに非常用持出品を配
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	入札又は複数者による見積合わせを実施することにより、公正な競争を確保しながら、より安価な業者より調達している。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 防災備蓄計画に基づいて防災資機材を整備する。平成３０年９月のブラックアウトを受けて、電力の確保に努める。町民の防災意識の向上を図るため、一定の防災用品を無償で全戸配布し、防災に対するきっかけづくりを目的とする。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 非常用発電機及び転入者向けの非常用持出品の調達	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点		日頃からの備えとして、避難所等における備蓄品の見直し、検討を図る。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	防災訓練事業		課・グループ名	危機対策課危機対策グループ		
			評価者名	総務部長　那須　清二		
総合計画	基本目標	０１　人を創り、地域力を高めるまちづくり	予算科目	款	02	総務費
	施策(大)	０７　防災体制の強化		項	01	総務管理費
	施策(中)	０１　防災体制の充実、強化		目	11	諸費
	施策(小)	０２　備品の整備や訓練による防災意識の向上、体制の強化		大事業	01	防災対策事業
事業期間	終期未定		平成２７年度 ～			
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町地域防災計画		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町自治会連合会や単位自治会などの地域及び消防や警察などの各関係機関と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施する。 町が主催する総合防災訓練を３年に一度実施する。次回令和７年度。 また、美幌駐屯地隊区内２市８町防災担当職員による災害対処研修会を実施し、更なる連携強化を図る。					
事業目的	自助、共助、公助の役割について理解し、災害に対する町民の防災意識の高揚を促し、発災後における被害や混乱を最小限度にとどめる。					
事業の対象	職員、町民、自衛隊、消防、警察、気象台					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 職員、住民、自衛隊、消防、警察、気象台等と連携した避難行動訓練、図上訓練等を行う。 【現状と課題】 地域の特性に合わせた避難行動訓練や図上訓練を開催しているところだが、より多くの町民の参加により、訓練を通じて日頃から避難経路の把握や災害への備えを浸透させ防災意識の醸成を図る。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	71	317	67	39	73	682
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	200	0	0	0	－
一般財源	71	117	67	39	73	682
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	71	317	67	39	73	682

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	防災訓練実施回数	目標	回	4	4	4	4	4
		実績	回	2	3	4		
		達成率	%	50	75	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域に対し、自助、共助、公助の役割の理解と防災意識の高揚を促すことで、災害時の被害を最小限に抑えるため。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	地域や関係機関と連携して各種訓練を開催することで、災害への備えと、災害が発生した場合における連携強化を図ることができ
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	各種防災訓練を通じ、地域内の連携及び地域の防災意識の高揚を図り、かつ関係機関との連携強化を図る。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 美幌町自治会連合会や単位自治会など地域と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施する。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 近年の災害状況を踏まえながら町民のニーズや意識啓発に即した訓練を実施する。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	全町的な訓練は３年に１度であるが、単位自治会との訓練や図上訓練を通じて、防災意識の向上を図る。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	健康づくり推進事業		課・グループ名	保健福祉課・高齢介護グループ	
			評価者名	福祉部長　斉藤　浩司	
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	xx
	施策(大)	０２　高齢者福祉の充実		項	xx
	施策(中)	０２　自立生活の支援		目	xx
	施策(小)	０１　健康づくり・疾病予防の推進		大事業	xx　健康づくり推進事業
事業期間	４年度	令和５年度 ～ 令和８年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	高齢者が地域の中で安心して元気に笑顔で過ごせる環境づくりと認知症やフレイル・介護予防対策を進めるため、町民主体の活動に対し、保健師等の専門職が関わり、活動の質や幅を向上させる。				
事業目的	高齢者が地域の中で安心して元気に笑顔で過ごせる環境づくりと認知症やフレイル・介護予防対策を進めることにより、少子高齢化社会でも高齢者自身が互いに支え合い、生きがいをもって生活できるよう推進する。				
事業の対象	高齢者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】				
	【現状と課題】 介護を必要とする可能性が高くなる75歳以上の高齢化率が上昇している。 今後さらに介護給付費や医療費の増加が見込まれる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	－	－	0	－
道支出金	－	－	－	－	0	－
地方債	－	－	－	－	0	－
その他	－	－	－	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	町民主体の活動の場への参加	目標	回			10	10	20
		実績	回			31		
		達成率	%			310		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢化率が上昇するなか、地域で安心して元気に過ごせる環境づくりは必須であることから妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	各活動の場に直接参加するため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	人件費のみで新たな予算を必要としないため効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 活動の場への直接参加は必要であるため、事業は継続する。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状では予算の確保は不要。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	参加場所・参加回数をさらに増加する。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	温泉入浴料助成事業		課・グループ名	保健福祉課高齢介護グループ	
			評価者名	福祉部長　斉藤　浩司	
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	03　民生費
	施策(大)	０２　高齢者福祉の充実		項	01　社会福祉費
	施策(中)	０２　自立生活の支援		目	03　高齢者福祉費
	施策(小)	０１　健康づくり・疾病予防の推進		大事業	01　高齢者福祉推進事業
事業期間	４年度	令和５年度　～　令和８年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等	美幌町温泉入浴料助成事業実施要綱		経費区分	政策的経費	
事業概要	温泉入浴料の1/2を助成することで福祉風呂の利用促進を図り、介護者の負担軽減及び要介護者の健康増進を図る。				
事業目的	介護者の負担軽減及び要介護者の健康増進				
事業の対象	要介護１～５				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 温泉施設入浴料金の一部助成を実施した。 【現状と課題】 周知を図るが利用者数が伸び悩んでいる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	26	612	612
国支出金	－	－	0	0	0	0
道支出金	－	－	0	0	0	0
地方債	－	－	0	0	0	0
その他	－	－	0	26	0	0
一般財源	0	0	0	0	612	612
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	26	612	612

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	利用者（延べ人数）	目標	人			100	250	400
		実績	人			86		
		達成率	%			86		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	介護者の負担軽減及び要介護者の健康増進を図ることは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	定期利用に繋がり有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	自己負担もあり適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 周知を継続し、利用促進を図る。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 事業継続のための予算の確保が必要。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		周知により入浴証交付者数を増加させることが必要。	

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地域福祉活動支援事業	課・グループ名	保健福祉課高齢介護グループ		
		評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	03	民生費	
施策(大)	０２　高齢者福祉の充実	項	01	社会福祉費	
施策(中)	０２　自立生活の支援	目	03	高齢者福祉費	
施策(小)	０４　生活環境の整備	大事業	01	高齢者福祉推進事業	
事業期間	終期未定	平成２１年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	市街地の自治会単位で活動する「たすけあいチーム」に対し、地域福祉活動補助金を交付し活動の支援を行う。 町で全ての高齢者宅等の間口除雪を行うことは不可能であり、「たすけあいチーム」に協力を依頼している。その負担軽減のために、「たすけあいチーム」に家庭用除雪機を貸与する事業を平成21年度から開始している。				
事業目的	たすけあいチームに除雪機を貸与することにより、高齢者宅等の間口除雪作業を支援していく。				
事業の対象	各自治会たすけあいチーム				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町所有の除雪機を貸与し、高齢者世帯への間口除雪を実施。 【現状と課題】 チーム員の高齢化や人員の確保が困難となっている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,220	1,110	3,643	3,363	1,667	1,667
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	600	600	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	100	1,000	2,000	2,000	1,000	1,000
一般財源	1,120	110	1,043	763	667	667
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,220	1,110	3,643	3,363	1,667	1,667

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 除雪機貸与台数	目標	台数	21	21	24	24	20
	実績	台数	21	21	20		
	達成率	%	100	100	83.33		
指標2 除雪対象世帯数	目標	世帯	134	134	134	134	140
	実績	世帯	103	141	177		
	達成率	%	76.87	105.22	132.09		
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	「たすけあいチーム」への支援は、高齢者等の除雪負担軽減のために不可欠であり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	除雪作業の負担軽減のために、小型除雪機の貸与は有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	「たすけあいチーム」のボランティアにより実施されており、経費削減に貢献している。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 高齢者世帯への間口除雪支援は今後も必要であり事業を継続する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 事業を維持するための予算を確保していく。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	除雪機が老朽化しているため適切な修繕が必要。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	在宅福祉サービス支援事業			課・グループ名	保健福祉課高齢介護グループ		
				評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ		予算科目	款	03	民生費
	施策(大)	０２　高齢者福祉の充実			項	01	社会福祉費
	施策(中)	０２　自立生活の支援			目	03	高齢者福祉費
	施策(小)	０４　生活環境の整備			大事業	02	在宅福祉事業
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等	美幌町介護予防・生活支援事業条例			経費区分	政策的経費		
事業概要	高齢者の自立した在宅生活を確保するために、介護予防・生活支援事業に基づく特定高齢者訪問介護や移送サービスなどの支援や在宅高齢者の住環境整備支援を拡充する。						
事業目的	高齢者等に介護が必要な状態に陥り、さらに悪化しないような介護予防を推進させ、自立した生活を確保することができるよう支援を行う。						
事業の対象	要介護状態等となるおそれのある高齢者等						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 要介護状態等となることを予防し、自立した日常生活を営むことに寄与できた。 【現状と課題】 当サービスを必要とする方への制度の周知を徹底する必要がある。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	3,327	3,317	7,118	3,358	13,921	13,921
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	3,317	7,118	3,358	13,000	13,000
一般財源	3,327	0	0	0	921	921
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	3,327	3,317	7,118	3,358	13,921	13,921

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	住宅改修助成件数	目標	件	7	4	5	5	5
		実績	件	0	2	0		
		達成率	%	0	50	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	高齢者等の自立した生活を送るための支援であり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	自立した生活を確保するための介護サービスに準じた支援等を提供しており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	介護報酬単価を基本としており適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 サービスの提供は今後も必要とされており、事業は継続する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 事業継続のための予算の確保が必要。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	未だに制度を知らない高齢者等が存在しているため、本サービス支援事業について更なる周知が必要。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	福祉担い手育成推進事業			課・グループ名	保健福祉課　高齢介護グループ		
				評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ		予算科目	款	03	民生費
	施策(大)	０２　高齢者福祉の充実			項	01	社会福祉費
	施策(中)	０７　介護保険事業の安定化			目	03	高齢者福祉費
	施策(小)	０２　介護人材の確保対策の推進			大事業	01	高齢者福祉推進事業
事業期間	終期未定		令和２年度　～				
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	町内の介護人材の確保及び資質の向上と定着の促進を図るため、資格取得等に係る経費の一部や町外から転入し町内の介護事業所に勤める方に住宅準備費用を支援する。						
事業目的	町内の介護人材の確保及び資質の向上						
事業の対象	町内の介護サービス事業所に従事及び従事予定の者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町内の介護従事有資格者の増 【現状と課題】 資格取得の後押しにはなっているが、介護事業所での職員不足は続いている。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,992	2,256	4,050	175	3,540	3,540
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	1,992	2,256	4,050	175	3,540	3,540
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,992	2,256	4,050	175	3,540	3,540

（見込額）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1　資格取得助成	目標	人	20	20	20	20	10
	実績	人	6	7	2		
	達成率	%	30	35	10		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町内事業所の介護従事者不足解消のため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	資格取得の後押しとなるものとして、介護従事者から高評価であり、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町内事業所勤務が補助の条件のため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 制度の再周知を行い、介護人材確保のため資格取得への促進を図る。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 事業継続のための予算の確保が必要。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	介護人材の確保に向け、事業所とも連携しながら事業周知を徹底していく				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	温泉入浴料助成事業	課・グループ名	社会福祉課民生障がい福祉グループ		
		評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	03	民生費
施策(大)	０３　障がい者福祉の充実		項	01	社会福祉費
施策(中)	０２　障がい者の自立生活の支援		目	05	障害福祉費
施策(小)	０１　福祉サービスの提供体制の充実		大事業	02	障害福祉給付事業
事業期間	５年度	令和４年度 ～ 令和８年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	身体・知的・精神障がい者に対して、温泉施設を利用する際に入浴料金の助成を行うことで、負担軽減と利用促進による健康増進を図る。 助成対象者：身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳所持者				
事業目的	障がい者の負担軽減と健康増進を図る。				
事業の対象	身体障害者手帳・療育手帳・精神保健福祉手帳保持者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 温泉施設入浴料金の一部助成（利用料金の1/2を間接助成） 令和６年度より、回数券についても助成対象とする。（普通券と同様に半額助成） 【現状と課題】 手続き（入浴証の発行→現地で日付と番号の記入）について、利用者より簡便にならないかご意見が寄せられているが、最低限の本人確認行為は必要だと考えている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	751	1,104	875	1,065	1,100
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	0	1,104	875	1,065	－
一般財源	0	751	0	0	0	1,100
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	751	1,104	875	1,065	1,100

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	利用者（延べ人数）	目標	人		2,300	2,505	2,700	3,000
		実績	人		2,525	2,500		
		達成率	%		109.78	99.8		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	障がい者の方々の健康増進を行うため、現在の事業内容は妥当だと考える。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	助成を行うことで、障がいを持つ方の利用が増えることとなり、「峠の湯」の利用促進が図られるため、事業内容は有効と考える
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	まだ事業開始２年目であるため、今後の利用実績等を見ながら、今後の運用内容等を検討していく。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 障がいを持つ方の健康増進が図られるため、現在の事業内容を継続して実施すべきと考える。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現段階では、利用料金の半額を助成する内容をベースに次年度も実施することで考えている。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	申請した方については、次年度入浴証を自動更新するなど、障がい者の方が利用しやすい方法に変更。 今後も利用者の方から、意見を聞くなど助成内容を確認しながら、事業を進めていく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地域生活支援事業	課・グループ名	社会福祉課民生障がい福祉グループ		
		評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	03	民生費	
施策(大)	０３　障がい者福祉の充実	項	01	社会福祉費	
施策(中)	０２　障がい者の自立生活の支援	目	05	障害福祉費	
施策(小)	０１　福祉サービスの提供体制の充実	大事業	03	障害者自立支援事業	
事業期間	終期未定	平成２８年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	障害者総合支援法	経費区分	政策的経費		
事業概要	障がい者等が自ら選択した場所に居住するとともに、その有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう生活実態の把握や情報提供など、関係機関と連携を図り地域生活支援事業を実施する。				
事業目的	地域において自立した日常生活を営める				
事業の対象	障害者等				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 地域活動支援センター、日中一時支援、移動支援等の支援事業 日常生活用具等の給付事業 【現状と課題】 今後、さまざまなニーズが求められるため、事業内容を検討していく必要がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	53,759	56,534	64,491	60,280	67,390	67,390
国支出金	9,530	10,697	11,343	10,755	11,874	11,874
道支出金	6,830	8,047	8,064	6,857	9,222	9,222
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	37,399	37,790	45,084	42,668	46,294	46,294
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	53,759	56,534	64,491	60,280	67,390	67,390

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 地域生活支援事業の利用者数	目標	人			100	105	110
	実績	人	89	92	100		
	達成率	%			100		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	法により町での実施が定められているため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	相談などを通じ必要なサービスへつなげているため有効性及び効率性がある。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	相談などを通じ必要なサービスへつなげているため有効性及び効率性がある。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 必要なサービスを提供するため現在の制度を継続する。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 必要なサービスを提供するため現在の制度を継続する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	事業内容を検討する。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	農福連携推進事業	課・グループ名	農林政策課農政グループ		
		評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	06	農林水産業費	
施策(大)	０３　障がい者福祉の充実	項	01	農業費	
施策(中)	０４　障がい者の社会参加、生きがい活動の促進	目	04	農業振興費	
施策(小)	０２　農福連携の推進	大事業	01	農業振興事業	
事業期間	単年度	～ 令和４年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	農業と福祉が連携することにより、農作業に係る担い手不足解消と障がい者等の雇用の場の創設が行えるように、農福連携を推進していく。				
事業目的	農業と福祉が互いに必要とする分野で連携を図る。				
事業の対象	農業関係者、福祉関係者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 障がい福祉サービス事業所との連携による、食物残渣を利用した農地用融雪剤の製造販売に向けた検討を行った。 【現状と課題】 実際に農地用融雪剤を製造すること及び使用する生産者の確保				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	523	295	0	0
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	0	0	523	295	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	523	295	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	農福連携の調査研究及び協議回数	目標		6	6	6	6	6
		実績		4	4	2		
		達成率	%	66.67	66.67	33.33		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農福連携を推進していくため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	関係機関と連携を図っている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係機関と連携を図っている段階であるため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 今後も障がい福祉サービス事業所や生産者と連携を深め、農福連携を推進する。			評価結果
予算	○　拡充　○　現状維持　●　縮小　○　皆減 現状予算の範囲内で事業推進を図る。	予算反映額（概　算）	△523千円	改善
今後の改善点	他の障がいサービス事業所や生産者と連携を深めること。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	次世代育成支援推進事業			課・グループ名	社会福祉課児童支援グループ		
				評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ		予算科目	款	03	民生費
	施策(大)	０４　子育て支援の充実			項	02	児童福祉費
	施策(中)	０１　次世代育成支援			目	01	児童福祉総務費
	施策(小)	０１　子ども・子育て支援事業の推進			大事業	01	児童福祉事務
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等	子ども・子育て支援法等			経費区分	政策的経費		
事業概要	子ども・子育て支援事業計画に基づき、子育てをめぐる現状と課題に対して社会全体による費用負担を行いながら、「質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供」「保育の量的拡大」「地域の子ども・子育て支援の充実」に向けた取組を推進していく。 私立の幼稚園等に対し「給食費補助」を実施する。						
事業目的	安心して子育てができる環境にするため。						
事業の対象	町内に居住の児童及び保護者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 子ども・子育て支援事業計画の推進						
	【現状と課題】 公立私立ともに保育士不足があり、教育保育の安定的な運営を図られるように、今後保育士確保に向けた施策を思案する。町立保育園の今後の施設の在り方を検討する。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	295,076	315,950	369,543	326,634	402,174	403,000
国支出金	143,511	130,230	160,950	140,273	179,807	180,000
道支出金	75,094	83,502	94,135	82,428	98,434	99,000
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	7,125	1,000	4,000	4,000	14,000	0
一般財源	69,346	101,218	110,458	99,933	109,933	124,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	295,076	315,950	369,543	326,634	402,174	403,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	協議会開催回数	目標	回	2	2	3	2	2
		実績	回	2	1	1		
		達成率	%	100	50	33		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	子ども・子育て支援事業計画を推進しているため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	必要な協議が実施できている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	国の制度に基づいているため適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現計画及び民間幼稚園の意向を汲んだ事業の推進を図る。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 認定こども園等の適正な運営を図るため、継続して支援する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	次期計画策定に向け、今後の施設の在り方を検討する。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	子育て支援センター改修事業		課・グループ名	社会福祉課子育て支援センターグル		
			評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	xx	
	施策(大)	０４　子育て支援の充実		項	xx	
	施策(中)	０２　子育てに関する相談・指導の充実		目	xx	
	施策(小)	０５　子育て支援センターの改修		大事業	xx	子育て支援センター改修
事業期間	単年度					
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	子育て家庭等に対する育児不安についての相談指導、子育てサークル等への支援、地域の保育資源の情報提供及び一時預かりなどを実施することにより、地域の子育て家庭に対する育児支援を行うとともに地域全体で子育てを支援する基盤の形成を図る。					
事業目的	地域の子育て環境の向上					
事業の対象	子育てしている保護者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 子育て支援センターの利用や一時預かり事業の利用によって、保護者の育児に対する負担軽減が計られている。 【現状と課題】 一時預かり事業において預かり体制が整わずにお断りや日にちを調整するケースがある。					
事業進捗度	－	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	16,280	0	0
国支出金	－	－	－	－	0	－
道支出金	－	－	－	－	0	－
地方債	－	－	－	－	0	－
その他	－	－	－	－	0	－
一般財源	0	0	0	16,280	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	16,280	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	一時預かりの利用希望に対する預かり	目標	件			90	100	100
		実績	件			90		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	保護者の負担経験及び子どもの育ちの支援のため必要である
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町立でしか一時預かりを行っていないため有効である
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	必要最低限の改修費用で行ったため適正である

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　休止・廃止 令和５年度に一時預かり室を改修し、施設改修事業は完了となったが、令和６年度より子ども誰でも通園制度枠を拡充し、保護者の負担軽減と子の育ちを支援する。			休止・廃止
予算	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　皆減 施設の改修は令和5年度のみの事業であるため、予算は皆減する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	子育て支援センターの改修が完了したため、「こども誰でも通園制度枠」を開始し、体制の確保や利用時間の上限の再検討等を行う。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	民間保育園利用者補助事業		課・グループ名	社会福祉課児童支援グループ		
			評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画	基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	03	民生費
	施策(大)	０４　子育て支援の充実		項	02	児童福祉費
	施策(中)	０３　保育園(所)の充実		目	01	児童福祉総務費
	施策(小)	０３　０歳児保育・休日保育の推進		大事業	01	児童福祉事務
事業期間	単年度					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	町で実施していない０歳児保育を行っている民間（ＮＰＯ）保育所に対し、０歳～２歳児までの利用者には町保育料との差額を補助し、さらに新たに町が行っている多子軽減についても同様に取り扱うこととして、補助の拡大を図っていく。					
事業目的	保護者の経済的負担の軽減					
事業の対象	民間（ＮＰＯ）保育所に通園する児童の保護者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 補助金の交付を行う。 【現状と課題】 施設の老朽化及び人材（保育士等）確保の課題がある。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	11,232	10,570	13,296	9,753	15,804	16,000
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	11,232	10,570	13,296	9,753	15,804	16,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	11,232	10,570	13,296	9,753	15,804	16,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	補助対象保育園数	目標	箇所	1	1	1	1	1
		実績	箇所	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町で実施していない０歳児保育を行っており、子育て支援のため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	該当となる保育園は１園のみであり、対象となっている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	保護者の経済的負担の軽減が図られており、多子軽減については町の保育園同様の考え方であるため適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 0～2歳児の保護者の経済的負担軽減のための補助金を交付する。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 0～2歳児保護者に対して継続して支援する。 予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		認可外保育所の今後の在り方を調査・研究する。	

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	プレママサポート等事業	課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ		
		評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	04	衛生費	
施策(大)	０４　子育て支援の充実	予算科目 項	01	保健衛生費	
施策(中)	０６　母子保健の推進	予算科目 目	02	予防費	
施策(小)	０２　経済的支援の充実	予算科目 大事業	03	母子保健事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町妊婦一般健康診査等交通費補助金交付要綱　美幌町特定不妊治療支援金	経費区分	政策的経費		
事業概要	子供を産もうとする世代や妊産婦および子育て世代の経済的支援のため、妊娠・出産・子育てに要する費用の助成を行う。 特定不妊治療に係る費用、妊婦健診時等の交通費、出産・子育てに要する費用の助成を行う。 特定不妊治療（保険適用）に付随して実施する先進不妊治療費（保険適用外）の一部助成をR6.2より実施する。				
事業目的	妊娠・子育て世代の経済的支援を実施する。				
事業の対象	妊産婦等及び子育て世代の町民。				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 申請に対し100%助成できた。若い子育て世代に対する経済的支援として負担軽減につながっている。特定不妊治療の助成対象者からは、安心して治療継続できると高く評価していただいている。 【現状と課題】 経済的負担の軽減にはなっているが、出生数の増加には直結しない。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	2,463	11,164	12,292	11,079	14,659	14,659
国支出金	0	6,266	6,018	5,000	5,666	5,666
道支出金	0	1,425	1,504	1,116	1,932	1,932
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	200	0	0	0	0	0
一般財源	2,263	3,473	4,770	4,963	7,061	7,061
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	2,463	11,164	12,292	11,079	14,659	14,659

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	妊婦一般健康診査等交通費補助人数	目標	人	74	90	80	80	80
		実績	人	74	75	74		
		達成率	%	100	83.33	92.5		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	妊産婦期及び子育て世代への経済的支援は安心して子育てできる環境づくりとして必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	目標を上回る実績もあり、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	交通費の補助額として適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 子育て世帯の経済的負担を軽減していくため、事業は継続。 保険適用となり道の補助事業が終了した特定不妊治療費助成事業は、令和５年度以降は町独自の助成事業として継続。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	少子化が加速しているが、これからも安心して子育てができるよう、子育て世代に対し必要な支援を検討していく。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	保健衛生推進事務	課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ		
		評価者名	福祉部長　斉藤　浩司		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	04	衛生費
施策(大)	０５　保健予防対策の推進		項	01	保健衛生費
施策(中)	０１　総合的な保健体制の充実		目	01	保健衛生総務費
施策(小)	０１　健康づくりの推進や保健医療体制の整備充実		大事業	01	保健衛生推進事業
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会設置要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	長生きを楽しめるまちづくりをキーワードとし、保健・医療・福祉関団体で協働し、町に必要な取組を検討・協議を行い、必要な情報を町民へ普及・啓発を行う事を目的とする。				
事業目的	町民が健康で安心して暮らせる町づくりを推進する。				
事業の対象	町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 令和２年からネットワーク推進委員会が開催されていなかったが、令和５年度は新しい委員(11期)となり、フレイル予防推進を中心に活動を再開し、講演会を実施。令和６年度以降も講演会を継続する予定。講演会は町民から好評。 【現状と課題】 新しい委員となる際に、推進委員会の目指すところの統一を図る必要がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	3,831	3,803	4,192	3,948	4,182	4,182
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	1,284	1,284	1,302	1,302	1,302	1,302
一般財源	2,547	2,519	2,890	2,646	2,880	2,880
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	3,831	3,803	4,192	3,948	4,182	4,182

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	休日当番医開設割合	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100		
		達成率	%	100	100	100		
指標2	保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会の開催回数	目標	回数	4	2	4	4	4
		実績	回数	0	0	3		
		達成率	%	0	0	75		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	長生きを楽しむ町づくりを推進するために、推進員会を開催し、町民向けの講演会を開くことができた。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	医師会との協力のもと、祝祭日の医療体制の確保が図れた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	津別、大空、美幌町の３町で人口比で費用負担しながら体制確保している。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会としての目的達成を評価、見直しを行う。フレイル予防として口腔ケアの推進を図る。 地域医療推進に向け、開業医の確保も含めた医療体制の維持・整備に努める。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 令和６年度は現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	保健・医療・福祉ネットワーク推進委員会：各委員と地域課題を共有し、フレイル予防中心に長生きを楽しめる町づくりを町民向けに推進していく。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	固定医師確保事業	グループ担当名	国保病院総務課総務グループ	
		評価者名	事務長　但馬憲司	
総合計画 基本目標	02 自然の美しさやくらしの安全を、みんなで護りあうまちづくり	予算科目 勘項目	病院事業会計	
施策(大)	06 地域医療体制の充実			
施策(中)	01 国民健康保険病院の充実			
施策(小)	01 固定医師の確保	大事業		
事業期間	１０年度以上	平成　年度　～　令和　年度		
要求区分	継続	町長重点政策	○	
根拠法令等		経費区分	投資的経費	
事業概要	病床機能を有する地域の基幹的病院として、医師確保による診療の体制の充実を図り地域に必要な医療を安定的に提供する。今後も安定した医療の提供を行うため、出張医で対応している眼科医師の常勤化や必要とする常勤医の招聘に努める。			
事業目的	必要な医師を確保し継続的な医療を提供する。			
事業の対象	全町民対象（病院利用患者）			
実施結果・現状と課題	【実施結果】 令和5年4月1日付で内科医を採用できたが、別の内科医が同年7月5日に退職。 【現状と課題】 医師の働き方改革への対応など、安定的な病院運営のために今後も必要な医師の確保に努める必要がある。			
事業進捗度	２予定通りに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由		左の具体的な内容

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算(見込)
事業費（千円）	7,429	13,751	8,764	6,077	980	980
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	726	726	726	726	726	726
一般財源	6,703	13,025	8,038	5,351	254	254
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	7,429	13,751	8,764	6,077	980	980

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	医師確保数	目標	人	1	1	1	1	1
		実績	人	1	2	1		
		達成率	%	100.0	200.0	100.0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	診療体制の充実のために医師を採用することが引き続き必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	この事業により医師不足は解消されてはいないが、新たに医師１名を確保しており、一定の成果は得られている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	成功報酬制による医師の探索、紹介、面接機会の設定及び採用条件の調整などを行う紹介業者に委託するため効率性が高い。

次年度の取組の方向性				
事業	☐ 拡充　☑ 現状維持　☐ 縮小　☐ 休止・廃止			評価結果
	引続き医師確保を進める。			現状維持
予算	☐ 拡充　☑ 現状維持　☐ 縮小　☐ 皆減			
	紹介業者への紹介手数料（想定年収の25%）を確保する。（補正対応）	予算反映額（概　算）	0 千円	
今後の改善点	人材紹介だけではなく、様々な手法による採用活動の検討			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	医療従事者就業支援等事業		課・グループ名	保健福祉課健康推進グループ	
			評価者名	福祉部長　斉藤　浩司	
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目	款	04	衛生費
施策(大)	０６　地域医療体制の充実		項	01	保健衛生費
施策(中)	０５　医療従事者等の確保対策の推進		目	01	保健衛生総務費
施策(小)	００		大事業	01	保健衛生推進事業
事業期間	８年度	平成２５年度 ～ 令和８年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町医療従事者就業支援金要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	医療従事者が、町内の医療機関などに就職した場合に就業支援を行うことで、看護師などの医療従事者不足の解消を図り、安定的な医療を確保する。				
事業目的	医療従事者の新規就業及び定着を促し、もってその不足の解消を図るとともに、本町の医療の安定的な確保に資することを目的とする。				
事業の対象	町内医療関係施設において新たに常勤雇用として就職する医療従事者（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 住宅の準備に要する費用及び就業に係る費用を支援した。 【現状と課題】 離職者はいるが、その期間本町の医療に従事していただいたことを評価することとする。子育てしやすい町づくりをとおして若い世代の医療従事者が定着するなど、今後も離職者対策を検討していく。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	7,248	6,016	8,100	6,059	7,650	7,650
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	7,200	6,000	8,100	5,017	7,600	7,600
その他	0	0	0	17	0	0
一般財源	48	16	0	1,025	50	50
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	7,248	6,016	8,100	6,059	7,650	7,650

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	支援該当者数	目標	人	42	38	34	32	34
		実績	人	30	23	25		
		達成率	%	71.42	60.52	73.52		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町内医療機関の医療従事者不足を解消するために町が実施することは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	目標を達成しており、適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	医療従事者の不足解消および定着に効果があり、適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 医療従事者不足の解消のため事業を継続する。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 医療従事者が不足しているため、今後も予算を現状維持として医療従事者の不足を解消する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	医療従事者の確保に向け、医療機関とも連携しながら事業の周知を徹底していく。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	二酸化炭素排出抑制対策事業	課・グループ名	環境管理課環境衛生グループ		
		評価者名	建設部長　遠國　求		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	04	衛生費	
施策(大)	０７　生活環境保全・緑化活動の推進	予算科目 項	01	保健衛生費	
施策(中)	０１　環境共生に向けた総合的な取り組み	予算科目 目	04	環境保全推進費	
施策(小)	０１　地球温暖化防止に向けた取り組みの推奨	予算科目 大事業	04	二酸化炭素排出抑制対策	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	地球温暖化対策の推進に関する法律	経費区分	政策的経費		
事業概要	2050年までに町内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ宣言」を掲げており、この高い目標を達成するためには、再生可能エネルギーなど当町の地域資源を最大限活用した環境・経済・社会の統合的向上を図ることが重要である。その着実な遂行に向けて、環境・エネルギー分野のみならず様々な施策を分野横断的かつ相互補完的に進めていくことが求められる。				
事業目的	2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする。				
事業の対象	町内各家庭の消費エネルギー並びに事業者の消費エネルギー				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 美幌町再生可能エネルギー導入戦略を策定し、2050年までの再生可能エネルギー導入のロードマップを作成した。 【現状と課題】 温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すには、再生可能エネルギー導入の具体的な取り組みと省エネルギー対策を進めていくが必要である。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	10,235	9,668	0	0
国支出金	－	－	7,500	7,186	0	－
道支出金	－	－	0	0	0	－
地方債	－	－	0	0	0	－
その他	－	－	0	0	0	－
一般財源	0	0	2,735	2,482	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	10,235	9,668	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	CO2排出量の減少値	目標	%			30	30	
		実績	%			27		
		達成率	%			90		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	2050年に削減率100%を達成するために妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	指標値等は今年度の計画策定で仮決定とするため、有効性の検証は今後の課題となる。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	評価は今年度事業完了後となる。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　休止・廃止 令和6年度から「ゼロカーボン推進事業」に移行して実施する。			休止・廃止
予算	○　拡充　○　現状維持　○　縮小　●　皆減 令和6年度から「ゼロカーボン推進事業」に移行して実施する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	再生可能エネルギーを活用した具体的な取り組みを令和6年度より「ゼロカーボン推進事業」に移行して実施する。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	花樹育苗センター管理運営事業	課・グループ名	環境管理課環境衛生グループ		
		評価者名	建設部長　遠國　求		
総合計画 基本目標	０２　自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづ	予算科目 款	04	衛生費	
施策(大)	０７　生活環境保全・緑化活動の推進	項	01	保健衛生費	
施策(中)	０６　花や緑による景観の向上及び緑化の推進	目	04	環境保全推進費	
施策(小)	０１　花による景観づくりの推進	大事業	03	花樹育苗センター管理運	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	各自治会や公共施設へ配布する花苗の栽培を行い、町内の緑化や景観向上を図る。				
事業目的	道路や公園を花いっぱいにする。				
事業の対象	町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 町内の事業者に花樹育苗センターの管理運営業務を委託し、花の育苗を栽培し、自治会及び公共施設等に無料配布している。 【現状と課題】 安定した花苗づくりができる取り組みが必要である。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	5,632	5,630	6,447	6,939	14,571	6,214
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	4,000	0	5,000	5,000	9,000	－
一般財源	1,632	5,630	1,447	1,939	5,571	6,214
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	5,632	5,630	6,447	6,939	14,571	6,214

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 花苗配布	目標	本	85,000	85,000	85,000	85,000	85,000
	実績	本	82,654	87,381	86,572		
	達成率	%	97.24	102.8	101.8		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	緑の基本計画に基づく事業であり、実施主体は町が妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	土づくりから育苗まで民間に委託し、安定した花苗の配布を行っている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	必要最低限の経費で事業を行っている。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 施設維持管理のため委託費増となるが、現状の事業規模で実施する。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	安定した花苗づくりができるよう努める。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	企業誘致推進事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０１　雇用の拡大、安定		項	xx		
	施策(中)	０１　企業誘致の推進		目	xx		
	施策(小)	０１　企業誘致につながる情報収集の強化		大事業	xx	企業誘致推進事業	
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	ー			
根拠法令等	美幌町企業立地促進条例			経費区分	政策的経費		
事業概要	町の経済の活性化に資する企業の立地を促進するため、町内に工場等を新設し、又は増設する者に対し助成の措置を行うことにより、町の産業の振興及び雇用機会の創出を図ることを目的とする。						
事業目的	町内への誘致を図る。						
事業の対象	事業者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 令和５年度　３件の設備投資、補助件数　１件 【現状と課題】 現下の経済状況から企業誘致件数は伸び悩んでいるものの、既存町内事業者の設備投資及び雇用増に繋がっている。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	3,908	2,669	21,663	21,663
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	3,908	2,669	21,663	21,663
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	3,908	2,669	21,663	21,663

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	企業誘致、増設の補助件数	目標	件		－	1	4	3
		実績	件		－	1		
		達成率	%			100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町の経済活性化に対する企業誘致及び増設投資の影響度は高く妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	町の経済活性化に対し産業の振興及び雇用の創出に結びつくものであり有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	令和4年度に美幌町企業立地促進条例を制定しており今後の状況を注視する。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
	事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 令和4年度に美幌町企業立地促進条例を制定しており、今後必要に応じて調整する。		拡充
	予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 対象業者の事業が5年度に1社、6年度に1～2社開始となるため、予算増となる見込みである。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		制度周知の徹底を図り、企業誘致へつなげる。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	起業家支援事業	課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
		評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目 款	07	商工費	
施策(大)	０１　雇用の拡大、安定	項	01	商工費	
施策(中)	０４　起業や新たな事業化の推進	目	02	商工業振興費	
施策(小)	０１　新規起業者に対する支援制度の充実	大事業	02	商工業活性化促進事業	
事業期間	終期未定	平成２７年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町起業家支援事業補助金交付要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	町内で起業を図る事業者に対し、起業に必要な経費、店舗賃借料等の一部を補助することにより、多様な人材を確保し、地域の新たな雇用を創出するとともにまちのにぎわいを促し、もって地域経済の振興に寄与することを目的とする。				
事業目的	多様な人材の確保、雇用機会の創出。				
事業の対象	起業希望者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 起業に必要な経費、店舗賃借料等の一部の補助をし、地域おこし協力隊1件、小売業1件、飲食業2件の起業に繋がり、既に起業した３件に家賃補助することによって経営の安定に繋がっている。 【現状と課題】 令和３年度からは創業計画作成時に商工会議所が積極的な関り（指導）を行なっているため、安定した事業のスタートが出来ている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	6,934	6,520	8,488	8,402	6,000	6,000
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	6,900	0	0	0	0	－
その他	0	6,520	7,400	7,400	3,000	－
一般財源	34	0	1,088	1,002	3,000	6,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	6,934	6,520	8,488	8,402	6,000	6,000

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	起業補助件数	目標	件	4	5	6	3	3
		実績	件	6	2	7		
		達成率	%	100	40	116		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	雇用の創出は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	制度開始から２８件の実績があり、雇用の創出が図られており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費負担がネックとなる新規起業を促す意味からも、適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○ 拡充　● 現状維持　○ 縮小　○ 休止・廃止 継続して実施する。				現状維持
予算	○ 拡充　● 現状維持　○ 縮小　○ 皆減 現在の成果を維持するため。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	引き続き、会議所と連携し起業を支援していく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	農作物原・採種圃設置事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06	農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01	農業費
	施策(中)	０１　農業生産環境の保全・整備		目	04	農業振興費
	施策(小)	０１　一般農作物原・採種圃設置の推進		大事業	04	農作物原・採種圃設置事
事業期間	単年度					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	安全安心な農作物の安定生産と品質保持を図るための優良種子確保は重要であることから、原採種圃を設置する生産者に対して、必要経費（農薬費・抜取等の労賃）の一部を助成する。					
事業目的	安全安心な農作物の生産					
事業の対象	農業経営者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 必要経費（農薬費、労賃、種子代）の一部助成 【現状と課題】					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,079	1,115	1,792	1,575	1,614	1,614
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	1,000	1,000	1,000	－
一般財源	1,079	1,115	792	575	614	1,614
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,079	1,115	1,792	1,575	1,614	1,614

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	原採種圃設置戸数	目標	戸	24	23	23	22	22
		実績	戸	23	23	22		
		達成率	%	95.83	100	95.65		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	安全、安心な農作物の安定生産が求められており、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	病害虫の異常発生の予防、優良種子確保が進めるため、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	安全、安心な農作物の安定生産のため、適正な経費の負担となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状のまま、実施することが妥当である。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状のまま、実施することが妥当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	設置戸数が減少傾向にあることから、関係機関と連携の上、設置戸数の拡大を図っていく。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	農作物鳥獣被害対策事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01　農業費
	施策(中)	０１　農業生産環境の保全・整備		目	04　農業振興費
	施策(小)	０４　農作物への食害防止対策		大事業	05　農作物鳥獣被害対策事業
事業期間	単年度	平成３年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等	農作物獣害対策事業実施要領	経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町鳥獣被害対策実施隊によりエゾシカの駆除を実施し、農作業被害の減少を図る。 また、平成１２～１４年で設置した鹿柵の固定資産税相当額を助成する。				
事業目的	エゾシカ等による農作物被害を減少させる				
事業の対象	農業者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 実施隊による有害鳥獣の駆除 【現状と課題】				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	2,553	3,200	4,201	3,212	4,979	4,979
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	290	310	480	350	480	480
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	2,263	2,890	3,721	2,862	4,499	4,499
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	2,553	3,200	4,201	3,212	4,979	4,979

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	有害鳥獣捕獲頭数	目標	頭	600	600	600	600	600
		実績	頭	490	528	587		
		達成率	%	81.67	88	97.83		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき、町が実施する事業である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	事業計画どおりの駆除が実施されており、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	ＪＡと協力して実施することで適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状のまま、実施することが妥当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状のまま、実施することが妥当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	鳥獣による農作物被害を減少させるため、関係機関との連携を更に図っていく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	みらい農業センター維持管理事業	課・グループ名	みらい農業課農業センターグループ		
		評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目 款	06	農林水産業費	
施策(大)	０２　農業の振興	項	01	農業費	
施策(中)	０２　担い手の育成確保と生産性の向上	目	04	農業振興費	
施策(小)	０１　担い手対策及び花嫁対策の推進	大事業	06	みらい農業センター管理	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町農業担い手対策協議会による農業体験実習制度は、農業に興味や関心を持つ女性限定の実習生を積極的に受入し、農業体験を通して農家青年と自然な形で交流の場を設定し、農家青年配偶者対策の成果に繋げる。 占有圃場内に市民農園を開設し、農業及びみらい農業センターの存在価値向上を図る。				
事業目的	農家青年配偶者対策と市民農園開設による農業及び農村への理解を向上させ、みらい農業センターの存在価値向上を図る。				
事業の対象	農業体験女性実習生及び農家花嫁希望者、一般町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 農業体験女性実習生及び農家花嫁希望者の受入数は３.評価を参照。 【現状と課題】 市民農園は募集区画に達した。令和５年度から受入を開始した農家花嫁希望者は実績があり目標に達したが、農業体験女性実習生は募集したが実績が無く、引き続きホームページ等で募集を呼びかけることとしたい。				
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	農業体験女性実習生は募集したが実績が無かった。

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	4,158	4,650	5,934	4,679	5,963	4,136
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	1,400	0
その他	468	475	1,801	122	1,698	1,698
一般財源	3,690	4,175	4,133	4,557	2,865	2,438
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	4,158	4,650	5,934	4,679	5,963	4,136

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 体験実習生の受入数	目標	人	4	4	4	3	3
	実績	人	4	6	0		
	達成率	%	100	150	0		
指標2 農家花嫁希望者の受入数	目標	人			2	1	1
	実績	人			2		
	達成率	%			100		
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農家青年配偶者対策はJAとの連携によって事業が継続化されており、事業継続化による成果も得られている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	女性農業体験実習生の実績が無く、農家青年との交流機会を実施できなかったが、実習生の受入時には配偶者対策に繋げる。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	実習生と農家青年との成婚実績はH16年からの19年間で7組に達しており、成婚実績は道内随一であることから効率的である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 農家青年配偶者対策については地域巡回や面談を通じて結婚相談員や地域との連携を更に密にして関係者が一体となった取り組み体制の強化を図ると共に、農家花嫁希望者を積極的に受入する中で、農家青年との交流の場を設け、成果に繋げていきたい。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の成果を維持する中で、ストーブ等を改修していく。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	農家青年配偶者対策については、結婚相談員や地域との連携を密にして取り組み体制の強化を図ると共に、農家花嫁希望者を積極的に受入する中で、農家青年との交流の場を設け、成果に繋げていきたい。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	みらい農業センター推進事業	課・グループ名	みらい農業課農業センターグループ		
		評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目 款	06	農林水産業費	
施策(大)	０２　農業の振興	項	01	農業費	
施策(中)	０２　担い手の育成確保と生産性の向上	目	04	農業振興費	
施策(小)	０１　担い手対策及び花嫁対策の推進	大事業	06	みらい農業センター管理	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町補助金等交付規則美幌みらい農業センター新規就農予定者研修実施要綱·	経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町で新たに農業を営もうとする意欲ある新規就農予定者の円滑な就農促進を図るため、美幌みらい農業センターにおいて、基礎から実践技術にいたる広範な技術、知識等を習得させるために必要な農業研修に対し支援することを目的とする。				
事業目的	将来、地域農業の核となる新規就農者を育成し、農業基盤の強化を図る。				
事業の対象	美幌みらい農業センター新規就農予定者農業研修実施要綱に基づき、町長から研修許可を受けた、新規就農予定者。				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 現在、離農予定者から経営資産を一括継承する「経営継承」による新規就農方式を推奨しており、これまでに15組の経営継承による新規就農実績がある。 【現状と課題】 令和５年度で新規就農研修生が卒業し令和６年度から就農したが、令和６年度は現在経営継承を希望する農家が無く研修生は募集していない。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	502	818	899	833	2,719	2,719
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	502	818	899	833	2,719	2,719
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	502	818	899	833	2,719	2,719

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	新規就農予定者	目標	年目	2	1	1	1	1
		実績	年目	1	1	1		
		達成率	%	50	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	新規就農者の育成には農業研修のほか、経営継承先や地域との就農に関わる各種調整、資金計画など、総合的に育成する必要があ
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	近年の就農形態は経営継承方式による新規就農に取り組んでおり、新規就農者及び離農者双方にメリットがあることから新規就農
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	新規就農者の育成には一定の費用負担は発生するものの新規参入者による就農によって農地の流動化が促進し、農村地域の人口維

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現在、募集する経営継承による新規就農案件は合同会社化された町内野菜出荷グループへの加入ありきの形で研修が行われることから、農業センターでの基礎的研修と野菜出荷グループメンバー宅での実践的研修をバランスの取れた研修計画を作成したい。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の成果を維持するため。	予算反映額（概　算）　1,820千円	
今後の改善点	経営継承を希望する農家が出てきた場合、引き続き新規就農予定者の育成や継承に取り組んでいく。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	コントラクター推進事業			課・グループ名	農林政策課農政グループ		
				評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０２　農業の振興		項	xx		
	施策(中)	０２　担い手の育成確保と生産性の向上		目	xx		
	施策(小)	０３　コントラクター事業の推進		大事業	xx	コントラクター推進事業	
事業期間	単年度						
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	農業従事者の高齢化や担い手不足が進行する中、個別経営を支えるコントラクター事業の導入に向けた取組を推進し、耕起や植え付け、収穫時の労力負担軽減を図る。						
事業目的	農業者の労力負担軽減を図る。						
事業の対象	農業関連事業者、他産業事業者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 関係機関と連携を図り、加工用馬鈴薯の収穫選別に係るコントラクター事業の推進を図った。 【現状と課題】 地域の労働力不足へ対応するため、生産者が求めているコントラクター事業について関係機関と連携をさらに図っていく。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	29,000	0	0	0	0	0
国支出金	－	0	0	－	0	－
道支出金	－	0	0	－	0	－
地方債	－	0	0	－	0	－
その他	－	0	0	－	0	－
一般財源	29,000	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	29,000	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	町内コントラクター事業数	目標	件	2	2	2	2	2
		実績	件	2	2	2		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農作業に係る地域の労働力不足への対応を図るのため、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	労働力不足への対応を図るため、2つ目のコントラ事業をＪＡが立ち上げれた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	ＪＡが立ち上げたコントラ事業を支援することで、効果的に運用ができているため、効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 今後も他の作物などでコントラ事業の導入が検討されている場合は、関係機関と連携の上、取り進めて行く。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 地域の労働力不足へ対応するため、現状維持となる。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	地域の労働力不足へ対応するため、生産者が求めているコントラ事業について関係機関と連携をさらに図っていく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	新規就農者等支援事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画 基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06	農林水産業費
施策(大)	０２　農業の振興		項	01	農業費
施策(中)	０２　担い手の育成確保と生産性の向上		目	04	農業振興費
施策(小)	０８　新規就農者支援の推進		大事業	02	新規就農者等支援事業
事業期間	単年度	平成１１年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町新規就農者等支援事業補助要綱、美幌町農業次世代人材投資資金要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	新規就農者等支援事業補助金交付要綱に基づき、対象となる新規農業従事者や新規就農者に対し、農作業機械の購入や資格取得に係る助成を行い、担い手の確保を図り本町農業の持続的発展を図る。 また、新規就農された方に対し、農業経営が安定するまで最長５年間、農業次世代人材投資資金を交付する。（間接補助事業）				
事業目的	新規就農者や新規農業従事者の定着を促進するため、初期投資費用を軽減することで経営安定を図る				
事業の対象	新規就農者、新規農業従事者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 補助金を活用し、新規就農者や新規農業従事者の定着を図った。 【現状と課題】				
事業進捗度	１　予定を上回る成果があり、良好な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	12,347	17,501	16,731	11,751	21,800	18,050
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	1,500	3,930	3,000	3,000	7,950	4,200
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	2,329	8,596	11,323	8,751	11,702	0
一般財源	8,518	4,975	2,408	0	2,148	13,850
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	12,347	17,501	16,731	11,751	21,800	18,050

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	新規就農者及び新規農業従事者数	目標	人	4	4	4	4	4
		実績	人	8	10	8		
		達成率	%	200	250	200		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	担い手確保が求められる中、引き続き、支援が必要であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	担い手確保対策として、新規農業者等への支援は、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	担い手確保及び農業経営の安定のため、適切な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 新規就農者、新規農業従事者を支援することにより、担い手の確保に努める。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 新規就農者、新規農業従事者の定着を図る。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	今後とも適切な補助金の活用により、担い手の確保を図っていく。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	みらい農業センター農業振興事業		課・グループ名	みらい農業課農業センターグループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06	農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01	農業費
	施策(中)	０３　新たな農業の展開		目	04	農業振興費
	施策(小)	０１　みらい農業センターによる新規農作物の実証試験		大事業	06	みらい農業センター管理
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	ー			
根拠法令等		経費区分	政策的経費			
事業概要	独自性があり、高い有益性が期待できる新規作物や新たな栽培技術を積極的に地域へ提案、普及推進をするために占有農場を活用し、新規作物や新栽培技術の研究・調査を実施することで、本町の基幹産業である農業の更なる発展と新たな展開を図る。					
事業目的	地域農業収益の向上と差別化された個性ある特産品の誕生をめざす。					
事業の対象	新規就農者・一般農業者（後継者含）					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ＪＡ美幌、農業改良普及センター美幌支所、日甜美幌などとの連携により地域基幹作物の新品種、新技術の栽培試験を実施するほか、日本初の11月初旬出荷に成功した伏せ込みアスパラガス栽培の更なる高収益化をめざした独自の栽 【現状と課題】 地域特性に合った新規作物や新技術の研究調査は、地域事情に精通する地域農業センターが担う必要があり、大きな成果も得られている。新規作物の継続的な検証と、更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	7,950	9,332	11,971	11,196	12,860	13,238
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	6,676	8,268	10,296	11,196	11,268	8,190
一般財源	1,274	1,064	1,675	0	1,592	5,048
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	7,950	9,332	11,971	11,196	12,860	13,238

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	試験展示圃における栽培試験数	目標	件	14	14	14	14	14
		実績	件	14	14	14		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域特性に合った新規作物や新技術の研究調査は地域事情に精通する地域農業センターが担う必要があり、大きな成果も得られて
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	新規作物や新技術の調査研究は農業者への情報提供、提案を実施していくという共通認識でJA、普及セ、日甜と連携して取組まれ
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	新規作物や新技術の調査研究は、最小限の費用で最大の効果をあげており、効率性は極めて高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の成果を維持する中で、高騰する作物栽培用消耗品の増額や備品を購入していく。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	新規作物や新技術の調査研究結果は単発的な発信で効果が得られるものではないことから、継続的な検証と更なる進化を追求した試験栽培に取り組む。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	農村ツーリズム推進事業	課・グループ名	みらい農業課農業センターグループ		
		評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx	
施策(大)	０２　農業の振興		項	xx	
施策(中)	０３　新たな農業の展開		目	xx	
施策(小)	０５　農村ツーリズムの推進		大事業	xx	農村ツーリズム推進事業
事業期間	終期未定	平成３１年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町農村ツーリズム推進協議会規約	経費区分	政策的経費		
事業概要	修学旅行生等を対象に農業体験や農村生活の場を提供し、都市農村交流を図る美幌版農村ツーリズム事業を農業者や関係機関と連携しながら展開することで地域農業の魅力発信を強化するとともに新たな農業収益策としての確立を目指す。				
事業目的	美幌版農村ツーリズム事業の展開により、農村地域での交流・滞在等を通じて地域への「認知・関心」を高め、「交流人口」、「関係人口」増加に繋げることで地域経済の活性化を図る。 また、受入体制の充実や受入手法のスキルアップを図るべく受入農家への支援や視察研修等を実施する。				
事業の対象	小中学生・高校生・一般				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ・日帰り農業体験受入：清風南海学園高等学校（平成28年～令和元年）、大阪高等学校（平成30年・令和5年）、自衛隊美幌駐屯地曹友会（令和4年・5年度）、米国人農業者（令和4年度） 【現状と課題】 現在、農家民泊受入に協力する農業者は20戸である。 引き続き受入農家の推進拡大と来町校の誘客を同時進行し、事業の拡大を図る。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	311	355	281	167	1,048	360
国支出金	－	－	0	0	0	0
道支出金	－	－	0	0	0	0
地方債	－	－	0	0	0	0
その他	－	－	0	0	0	0
一般財源	311	355	281	167	1,048	360
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	311	355	281	167	1,048	360

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 日帰り農業体験受入実績	目標	人	0	50	100	100	100
	実績	人	0	2	82		
	達成率	%	0	4	82		
指標2 農家民泊受入実績	目標	人	0	20	20	20	20
	実績	人	0	0	0		
	達成率	%	0	0	0		
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	「美幌町観光まちづくり協議会」が令和３年度をもって解散した事により、令和４年度からはみらい農業センターが事務局となり
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	新型コロナウイルスも落ち着き、日帰り農業体験を実施できた。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	新型コロナウイルスも落ち着き、日帰り農業体験を実施できた。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 修学旅行生等を対象に農業体験や農村生活の場を提供する中で都市農村交流を図り、農業者や関係機関と連携しながら展開することで地域農業の魅力を発信するとともに、新たな農業収益策としての確立を目指す。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 新型コロナウイルスも落ち着き、徐々に以前の成果を取り戻している。新たに作成する教育旅行誘客パンフレット等も活用し誘客に繋げたい。	予算反映額（概　算）	767千円	
今後の改善点	受入農家の推進拡大と来町校の誘客を積極的に取り組んでいく。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	乳用牛振興推進事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06	農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01	農業費
	施策(中)	０５　畜産の振興		目	05	畜産業費
	施策(小)	０１　乳用牛の検定の推進と生産振興		大事業	01	畜産振興事業
事業期間	単年度	平成２年度　～				
要求区分	継続	町長重点政策　－				
根拠法令等	美幌町農林業振興条例、美幌町農林業振興条例施行規則、乳牛検定事業実施要領	経費区分	政策的経費			
事業概要	①乳用牛群総合改良事業　乳用牛の資質向上や乳質向上及び酪農経営の改善を図るため、乳用牛群の総合的な検定事業を推進するため乳牛検定組合による検定員及び研修会の運営費の一部を助成する。 ②乳用牛振興事業　優良雌牛の牛群整備と搾乳牛の安定確保を図るため、乳用種性判別凍結精液の購入価格の一部及び削蹄に係る費用の一部を助成する。					
事業目的	①検定を促進することにより、町内の乳用牛群の資質及び収益を向上させる。 ②町内の優良乳用雌牛の増頭及び収益を向上させる。					
事業の対象	乳用牛飼養農家					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 検定の促進。 優秀な後継牛の確保。 【現状と課題】					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,682	1,669	2,000	1,866	2,000	2,000
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	2,000	1,866	0	－
一般財源	1,682	1,669	0	0	2,000	2,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,682	1,669	2,000	1,866	2,000	2,000

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	経産牛１頭当たりの乳量	目標	kg	8,900	8,900	8,900	8,900	8,900
		実績	kg	8,980	8,916	8,843		
		達成率	%	100.9	100.18	99.36		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	乳用牛の資質向上、乳質向上に繋がっている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	乳用牛の資質向上、乳質向上に繋がっており、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	関係機関との連携を図ることにより、効率的な運営が図られている。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現行の支援策を継続し、優良な経産牛の確保に努める。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行のままで妥当と考える。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	優良な経産牛を確保するための支援策の検討を行う。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	肉用牛振興推進事業		課・グループ名	農林政策課農政グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06	農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01	農業費
	施策(中)	０５　畜産の振興		目	05	畜産業費
	施策(小)	０５　肉用牛の生産振興		大事業	01	畜産振興事業
事業期間	単年度	平成９年度 ～				
要求区分	継続	町長重点政策	ー			
根拠法令等	美幌町農林業振興条例、美幌町農林業振興、美幌町優良肉用牛導入推進事業補助	経費区分	政策的経費			
事業概要	優良肉用繁殖牛の導入に対する一部助成を行い、優良な繁殖雌牛群整備により、美幌産和牛の資質向上と市場における優位性を確立し、肉用牛経営の安定と生産者の経営意欲を図る。また、和牛生産改良組合が実施する研修会等へ助成を行う。					
事業目的	優良肉用牛を計画的に導入することにより和牛生産経営の安定化が図られ、本町の和牛の資質向上、市場における優位性が確立される。 また、研修会等が開催され情報交換が行われることにより、生産者の飼養管理の向上が図られる。					
事業の対象	肉用牛生産農家					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 市場から優秀な血統の繁殖雌牛を導入するとともに、飼養する牛の価値向上を図るため研修会を開催する。 【現状と課題】					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,577	1,577	1,577	1,577	1,577	1,577
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	1,500	1,500	1,500	－
一般財源	1,577	1,577	77	77	77	1,577
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,577	1,577	1,577	1,577	1,577	1,577

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	十勝市場に対する町内黒毛和牛の価格比	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	89.2	83.8	86		
		達成率	%	89.2	83.8	86		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	肉用牛の振興に基づく事業であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	優秀な繁殖雌牛の牛群整備ため、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	事業主体への経費の一部助成に努めており、適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容						評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 原稿の支援策を継続し、優秀な繁殖雌牛の牛群整備を図る。				現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行のままで妥当と考える。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点		生産者のニーズに対応した支援策を検討するため、関係機関と連携を図る。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	田中３６号地区道営農村整備事業		課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx	
	施策(大)	０２　農業の振興		項	xx	
	施策(中)	０７　生産基盤の保全・整備		目	xx	
	施策(小)	０１　畑総事業等による土地基盤整備事業の推進		大事業	xx	田中３６号地区道営農村
事業期間	７年度	令和４年度 ～ 令和１０年度				
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等	土地改良法	経費区分	投資的経費			
事業概要	供用開始から４０年以上経過している町道第３６号道路の機能診断、機能保全計画を策定するとともに、今後の維持管理の効率化・適正化に向けた計画（維持管理適正化計画）を策定し、それらに基づいた対策を計画的・集中的に実施する。 対象施設：町道第３６号道路　受益面積：392.0ha　受益戸数：20戸 施設概要：L=4,693m　W=5.5(7.0)m					
事業目的	農作物の運搬路でもある本路線は、路肩の変形や舗装クラック凹凸が著しく通行に支障をきたしているため、更新整備を行って農作業の効率化及びコスト縮減を図る。					
事業の対象	農道としての機能を維持し、老朽化等により補修や更新を必要とするも道路整備事業による優先度が低い町道					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 道営事業による農道整備の実施					
	【現状と課題】 道営事業推進に努める					
事業進捗度	－	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	7,875	11,250
国支出金	－	－	0	－	0	0
道支出金	－	－	0	－	0	0
地方債	－	－	0	－	7,800	11,200
その他	－	－	0	－	0	0
一般財源	0	0	0	0	75	50
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	7,875	11,250

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	農道整備進捗状況	目標	%			0	8	23
		実績	%	0	0	0		
		達成率	%			0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	農道整備にて地域の農業生産基盤の整備を図る
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○ 拡充　● 現状維持　○ 縮小　○ 休止・廃止 計画的に事業推進の継続				現状維持
予算	○ 拡充　● 現状維持　○ 縮小　○ 皆減 計画的に予算執行の継続	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	関係機関・地元農家と連携の上、事業をけいぞくしていく必要がある				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	豊高第２地区道営土地改良事業		課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01　農業費
	施策(中)	０７　生産基盤の保全・整備		目	06　農地費
	施策(小)	０１　畑総事業等による土地基盤整備事業の推進		大事業	02　道営土地改良事業
事業期間	８年度	平成２９年度 ～ 令和６年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等	土地改良法	経費区分	投資的経費		
事業概要	活力ある農村地域社会と担い手支援を図るため、農産物の輸入自由化に対応できる基盤整備及び生産性並びに集落環境の向上、安定した農業の経営を図る。農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業（畑地帯担い手育成型）） 受益面積：325.1ha　受益戸数：29戸 工事種別：区画整理、暗渠、客土				
事業目的	生産基盤である農地を整備し、生産性の向上、安定した農業の経営を図る。				
事業の対象	地区内の農地、農業者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 道営事業による基盤整備の実施				
	【現状と課題】 道営事業推進に務める				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	24,574	26,672	30,937	30,788	5,780	0
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	10,510	11,981	13,352	13,485	2,376	－
地方債	3,053	2,883	3,476	3,513	690	－
その他	11,011	11,804	14,108	13,790	2,714	－
一般財源	0	4	1	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	24,574	26,672	30,937	30,788	5,780	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	農地整備進捗状況	目標	%			97	100	
		実績	%	65	80	97		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域の農業生産基盤の整備を図る
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	農業生産性の向上安定した農業の経営を図る
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	農業生産性の向上安定した農業の経営を図る

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 計画的に事業推進の継続				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 計画的に予算執行の継続	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	関係機関・地元農家と連携の上、事業を継続していく必要がある				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	田中第２地区道営土地改良事業		課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01　農業費
	施策(中)	０７　生産基盤の保全・整備		目	06　農地費
	施策(小)	０１　畑総事業等による土地基盤整備事業の推進		大事業	02　道営土地改良事業
事業期間	７年度	平成３１年度 ～ 令和７年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等	土地改良法	経費区分	投資的経費		
事業概要	活力ある農村地域社会と担い手育成を図るため、農産物の輸入自由化に対応できる基盤整備及び生産性並びに農村環境の向上、安定した農業の経営を図る。農業競争力強化基盤整備事業（水利施設等保全高度化事業（特別型：畑地帯担い手育成型）） 受益面積：663ha　受益戸数：61戸 工事種別：区画整理、暗渠、客土　（大雨、台風等の被害対応も併せて実施）				
事業目的	生産基盤である農地を整備し、生産性の向上、安定した農業の経営を図る				
事業の対象	地区内の農地、農業者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 道営事業による基盤整備の実施 【現状と課題】 道営事業推進に努める				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	27,791	25,367	26,622	26,382	43,943	13,770
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	11,028	10,130	11,013	11,061	18,613	5,963
地方債	3,205	2,941	3,197	3,210	5,404	1,700
その他	13,538	12,295	12,411	12,111	19,925	6,075
一般財源	20	1	1	0	1	32
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	27,791	25,367	26,622	26,382	43,943	13,770

（見込額）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1　農地整備進捗状況	目標	%			68	92	100
	実績	%	40	54	68		
	達成率	%	100	100	100		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域の農業生産基盤の整備を図る
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 計画的に事業推進の継続		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 計画的に予算執行の継続	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	関係機関と地元農家と連携の上、事業を継続していく必要性がある		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	中央美和地区道営土地改良事業		課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０２　農業の振興		項	01　農業費
	施策(中)	０７　生産基盤の保全・整備		目	06　農地費
	施策(小)	０１　畑総事業等による土地基盤整備事業の推進		大事業	02　道営土地改良事業
事業期間	９年度	令和２年度　～　令和１０年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等	土地改良法	経費区分	投資的経費		
事業概要	国営事業による用水再編に併せ、用水施設及び基盤整備を行うことにより、農村環境の向上、安定した農業の経営を図る。 農業競争力強化基盤整備事業（水利施設等保全高度化事業） ・受益面積：378ha　受益戸数：41戸 ・工事種別：用水施設、区画整理、暗渠、客土				
事業目的	用水施設を整備し、生産性の向上、安定した農業の経営を図る。				
事業の対象	地区内の農地、農業者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 道営事業による用水施設及び基盤の整備				
	【現状と課題】 道営事業推進に努める				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	25,264	114,992	72,607	72,586	96,883	85,000
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	6,412	26,462	27,521	18,365	40,787	18,406
地方債	11,842	61,552	17,027	21,277	14,545	25,300
その他	6,534	26,800	28,052	18,715	41,550	18,750
一般財源	476	178	7	14,229	1	22,544
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	25,264	114,992	72,607	72,586	96,883	85,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	農地整備進捗状況	目標	%			44	64	81
		実績	%	6	30	44		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域の農業生産基盤の整備を図る
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	生産性の向上安定した農業の経営を図る

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 計画的に事業推進の継続				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 定格的に予算執行の継続	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	関係機関・地元農家と連携の上、事業を継続していく必要がある				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	町産材活用促進事業		課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０３　林業の振興		項	02　林業費
	施策(中)	０２　付加価値の向上		目	01　林業総務費
	施策(小)	０２　FSC R 森林認証取得等による地域材ブランド化		大事業	02　林業推進事業
事業期間	１０年度以上	平成１９年度 ～ 令和１０年度			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町産ＦＳＣ森林認証材の利用促進により、森林資源の地産地消の推進・町内経済の活性化・町内住宅の良質な住環境整備、認証材の付加価値向上を図る。				
事業目的	美幌町産認証木材の普及拡大				
事業の対象	町産認証材				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 認証材住宅の建築費補助並びに満1歳及び新入学児童への認証材製品の配布 【現状と課題】 補助事業の確実な執行を図るため関係者間での調整を行ってはいるが、一般材の価格変動や森林組合の稼働状況などによって補助事業の執行に影響が生じる。				
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	より優位な補助事業があるため、本事業の活用がされなくなっている。

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	5,110	3,879	7,815	494	4,221	4,221
国支出金	774	1,441	3,240	0	1,620	1,620
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	3,071	0	0	0	0	0
一般財源	1,265	2,438	4,575	494	2,601	2,601
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	5,110	3,879	7,815	494	4,221	4,221

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	FSC認証材使用量	目標	m3	500	500	500	500	0
		実績	m3	130	130	0		
		達成率	%	26	26	0		
指標2	木製品に対するFSC認証木材使用量	目標	m3		150	150	150	0
		実績	m3		140	2		
		達成率	%		93.33	1.33		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域材を利用し木材の地産地を推進するためには木材の付加価値向上と利用促進が必要であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町内住宅の住環境整備への視点等取組みは、美幌町産ＦＳＣ森林認証材の成長・発展に繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	木材の高騰により、町産材活用促進事業補助金で価格差を埋めるには至っていない。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の計画で進めることが妥当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	事業の在り方に関し検討する。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地場産材利用促進事業		課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０３　林業の振興		項	02　林業費
	施策(中)	０２　付加価値の向上		目	01　林業総務費
	施策(小)	０２　FSC R 森林認証取得等による地域材ブランド化		大事業	02　林業推進事業
事業期間	終期未定	平成２８年度 ～ 令和１０年度			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等	美幌町地域材利用推進方針		経費区分	政策的経費	
事業概要	FSC® 森林認証材を使用した木製品の開発支援を行い、町産材の利用促進及び付加価値向上を図る。				
事業目的	FSC® 森林認証材の利用促進・付加価値向上				
事業の対象	FSC® 森林認証材				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 製品開発 【現状と課題】 ＦＳＣ森林認証材を使用した木製品の開発を行い、安価で安全性を見据えた製品開発を行う必要がある。				
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	既存生産品は順調に行っているものの、新製品の開発には至っていない。

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	498	539	2,214	1,827	1,801	1,801
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1,694	1,496	1,298	1,298
一般財源	498	539	520	331	503	503
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	498	539	2,214	1,827	1,801	1,801

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	FSC認証材を使用した製品開発個数	目標	個	4	4	4	4	4
		実績	個	2	2	0		
		達成率	%	50	50	0		
指標2	各種イベントにおける町産FSC認証材のPR実施回数	目標	回	5	5	5	5	5
		実績	回	1	4	5		
		達成率	%	20	80	100		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌町産ＦＳＣ森林認証材を推進するためには、森林認証材を使用した製品開発が必要であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	美幌町産ＦＳＣ森林認証材の木製品への支援等取組みは、ＦＳＣ森林認証の普及や認証材利用促進の発展に繋がるため有効である
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	対象を美幌町産ＦＳＣ森林認証材に絞ることで、一般材と差別化を図ることができ適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き、ＦＳＣ森林認証材の取組を推進し、町内外への普及及び製品開発を行い地場産材利用促進事業を実施する。		現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 利用推進及び認証製品の付加価値向上のために実施する。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	FSC認証材のPRとなる新製品開発に向け、事業者との連携を強化する。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	林業グループ育成事業	課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ		
		評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画 基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目 款	06	農林水産業費	
施策(大)	０３　林業の振興	項	02	林業費	
施策(中)	０３　経営の近代化・効率化の推進	目	01	林業総務費	
施策(小)	０１　林業グループの育成・組織強化及び青年林業士を活用した	大事業	02	林業推進事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	森林所有者の高齢化、後継者問題が深刻化することから、林業グループの活動を支援することにより、林業後継者の育成強化を図る。				
事業目的	林業後継者の育成				
事業の対象	林業後継者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 林業グループ活動費の補助 【現状と課題】 林業グループの育成及び組織維持のため研修会等を通して、林業後継者への参加を促し組織強化を図る必要がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	13	38	38	40	40
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	0	13	38	38	40	40
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	13	38	38	40	40

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	活動回数	目標	回	15	10	10	5	5
		実績	回	5	5	5		
		達成率	%	33.33	50	50		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	森林所有者の高齢化のため林業後継者不足が進む現状では、本事業から手を引くことは出来ないため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	林業グループの活動への支援は、林業後継者不足を解消することに繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	林業グループ活動補助金を行うことで適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の計画で進めることが妥当である	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	林業グループの活動支援の強化				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	森林の担い手支援事業		課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx
	施策(大)	０３　林業の振興		項	xx
	施策(中)	０３　経営の近代化・効率化の推進		目	xx
	施策(小)	０３　町内森林の安定的な森林整備の推進		大事業	xx　森林の担い手支援事業
事業期間	１０年度	令和５年度 ～ 令和１４年度			
要求区分	継続	町長重点政策　○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	担い手の高齢化や若年層の都市部流出などにより確保が困難となっており、森林の健全化、多面的機能の発揮、林業・木材製造業の安定経営には必要不可欠であることから、担い手（林業及び製材業）の確保を推進する。				
事業目的	林業・製材業の担い手確保				
事業の対象	林業従事者及び製材業従事者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 就業支援 【現状と課題】 担い手が不足しているが、求人活動に係る経費の面から事業体の活動が消極的である。また、近年新規に従事者となる方の多くは町外者であり、移住したいが費用面から断念し離職するケースも多い。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	720	120	960	2,040
国支出金	－	－	0	0	0	0
道支出金	－	－	0	0	0	0
地方債	－	－	0	0	0	0
その他	－	－	720	120	960	2,040
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	720	120	960	2,040

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	前年度新規就業者数	目標	人			4	4	4
		実績	人			1		
		達成率	%			25		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	森林の担い手不足は全国的な問題であり、町としても対策を講じる必要がある。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	担い手を確保するためには支援が必要となる。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費については適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の計画で進めることが適当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	林業・製材業従事者の確保に向け、広報等により事業の周知を徹底していく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	木質ペレットストーブ購入促進事業		課・グループ名	農林政策課森林農地整備グループ	
			評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	06　農林水産業費
	施策(大)	０３　林業の振興		項	02　林業費
	施策(中)	０５　木質バイオマスの普及促進		目	01　林業総務費
	施策(小)	０１　木質資源の利活用推進		大事業	02　林業推進事業
事業期間	１０年度以上	平成２０年度 ～ 令和１０年度			
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町地域新エネルギービジョン		経費区分	政策的経費	
事業概要	「美幌発低炭素な町づくり」「美幌町新エネルギービジョン」に基づき、化石燃料の代替によるＣｏ２排出削減及び木質バイオマスエネルギー推進のため、木質ペレットストーブの利用促進を図る。				
事業目的	ペレットストーブの普及拡大				
事業の対象	ペレットストーブ				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 ペレットストーブ購入費助成 【現状と課題】 年々補助実績が落ちており普及が進んでいない。ペレットストーブへの燃料補充の手間や掃除、ペレットの保管場所の確保など維持管理上のデメリットはあるが、脱炭素社会への取組みの一つとして進めて行く必要がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	813	1,214	2,033	1,555	2,026	2,021
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	700	1,100	2,000	1,500	2,000	2,000
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	113	114	33	55	26	21
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	813	1,214	2,033	1,555	2,026	2,021

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	町内木質ペレットストーブ設置累計台数	目標	台	100	100	100	100	100
		実績	台	79	82	85		
		達成率	%	79	82	85		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	「低炭素な町づくり」及び「美幌町新エネルギービジョン」に基づく事業であり実施主体は町が妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	化石燃料の代替によるＣＯ２排出削減への取組みは、地球温暖化防止の発展に繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	木質ペレットストーブ購入補助金を行うことで適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の計画で進めることが適当である	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	ペレットストーブの認知度向上を図り、制度周知を徹底していく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	事業継承支援事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０５　商工業の振興		項	xx		
	施策(中)	０１　経営基盤の強化、経営の近代化		目	xx		
	施策(小)	０２　経営相談･指導の強化		大事業	xx	事業継承支援事業	
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	ー			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	事業承継を行う前に経営を安定化させる。また、円滑に事業承継が出来るよう支援する。						
事業目的	事業承継を促し事業の継続化、雇用の安定を図る。						
事業の対象	事業経営者、承継者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 R5年度、本制度の利用なし。 【現状と課題】 今後において事業承継が問題となる事が想定されており必要時に対応できるよう、引き続き継続したい。						
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	事業開始後1件の利用となっている。		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	187	0	500	0	500	500
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	187	0	500	0	500	500
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	187	0	500	0	500	500

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	事業承継支援小規模事業者持続化補助金利用件数	目標	件	3	3	1	1	1
		実績	件	1	0	0		
		達成率	%	33.3	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	後継者不足が問題化され、美幌町の経済の維持・発展に必要不可欠である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	後継者がいる早い段階で事業展開が可能な制度であり、国補助への上乗せであることから事業者の負担が軽減されている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	事業承継の問題意識の啓発に繋がっている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 継続して実施する				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 継続して実施する	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	事業承継の問題意識の啓発のため、引き続き継続する。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	店舗リフォーム促進支援事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０５　商工業の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０１　経営基盤の強化、経営の近代化		目	02	商工業振興費
	施策(小)	０３　既存企業の振興促進		大事業	02	商工業活性化促進事業
事業期間	終期未定		平成２７年度 ～			
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町店舗リフォーム促進支援事業補助金交付要綱		経費区分	政策的経費		
事業概要	経営指導及び店舗のイメージアップに資するリフォームに要する経費の一部を補助することにより、集客力の強化による経営の安定化及び店舗機能の維持又は向上を図るとともに、町内の活性化を促し、もって地域経済の振興に寄与することを目的とする。					
事業目的	集客力の強化による経営の安定化及び店舗機能の維持や向上を図る。					
事業の対象	店舗の経営者および所有者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 経営指導、店舗リフォーム費用を補助した。 【現状と課題】 利用件数は8件となり、問合せも多く本制度があることから事業者はリフォームに着手しやすくなっている。令和5年度からは、限度額）100万円）まで複数回の利用可能とした。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	6,714	2,539	8,000	5,686	8,000	8,000
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	6,714	2,539	8,000	5,686	8,000	8,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	6,714	2,539	8,000	5,686	8,000	8,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	店舗リフォーム補助件数	目標	件	10	10	8	8	8
		実績	件	10	4	8		
		達成率	%	100	40	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域経済の振興は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	実績値からも有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	実績値からも有効である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現在の成果を維持するため。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	引き続き、経営指導は個別相談を原則とし、経営改善に繋げていきたい。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	空き店舗活用促進事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０５　商工業の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０２　商店街の魅力向上		目	02	商工業振興費
	施策(小)	０１　空き店舗の活用促進		大事業	02	商工業活性化促進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	ー		
根拠法令等	美幌町空き店舗活用事業補助金交付要綱		経費区分	政策的経費		
事業概要	中心市街地の空き店舗を活用した事業者への家賃を補助（月額の1/4で上限2万円最長12か月・同額を商工会議所からも補助）する。					
事業目的	空き店舗を活用した事業者への家賃補助を行い、中心市街地の活性化を図る。					
事業の対象	空き店舗を活用した事業者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 令和４年度１件起業し利用している。（R4.12～R5.11　R4　4カ月分　R5　6カ月分《2か月分修繕費相殺の為、家賃無し》） 【現状と課題】 現制度は、中心市街地区域のみの運用となっており、街中の空き店舗であっても区域外では対象とならない。					
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	平成30年度以降の実績が令和４年度の1件のみだったが、令和６年度に1件申込の予定有。	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	80	400	120	240	265
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	0	80	400	120	240	265
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	80	400	120	240	265

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	空き店舗活用件数	目標	件	2	1	1	1	1
		実績	件	0	1	1		
		達成率	%	0	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	中心市街地の活性化は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	空き店舗の活用に繋がるため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	商工会議所と同じ補助率であり経費は適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現在の成果を維持するため。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	起業家相談の際等に中心市街地への出店を推進していく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	プレミアム商品券発行事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０５　商工業の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０２　商店街の魅力向上		目	02	商工業振興費
	施策(小)	０５　町内消費拡大事業支援		大事業	02	商工業活性化促進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町労働及び商工振興対策補助金交付要綱		経費区分	政策的経費		
事業概要	消費拡大に伴う町内経済の活性化を目的としてプレミアム商品券を発券し、ポイントカードシステムによる消費者へのサービス提供を行う。					
事業目的	消費拡大に伴う町内経済の活性化。					
事業の対象	ポイントカード会員および登録事業者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 プリペイドチャージによる商品券発行イベントの開催費用を補助した。 【現状と課題】 利用率からも、十分な成果が出ている。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	9,851	8,398	8,400	8,170	8,400	8,400
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	1,304	0	0	0	0	－
地方債	0	0	8,400	8,100	8,400	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	8,547	8,398	0	70	0	8,400
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	9,851	8,398	8,400	8,170	8,400	8,400

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	商品券利用率	目標	%	99	99	99	99	99
		実績	%	99.98	99.98	97.3		
		達成率	%	100.99	100.99	98.2		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	商店街の活性化は重要な施策であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	町内での購買力が増しており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	利用率からも十分な成果が出ており、適正な経費である。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き実施する。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現在の成果を維持するため。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		各店舗の顧客満足度を高める工夫が必要。また、ポイントカードシステムの更新、加入店の拡充が課題となっている	

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	観光推進事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０６　観光の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０１　総合的な推進体制、ビジョンの確立		目	03	観光費
	施策(小)	０１　「美幌町観光振興革新戦略（第２次美幌町観光振興計画）		大事業	01	観光振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	近年の観光振興の動向に対応し、さらなる観光入込の増加や美幌の特色を活かした観光振興施策を展開しつつ、各関連団体とも連携を密にして、魅力ある観光地づくりを目指すとともに、多様な方法により情報発信の強化を図る。					
事業目的	美幌町の魅力をさらに知ってもらう。					
事業の対象	観光客					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 平成２８年８月発行、美幌町観光振興革新戦略ビジョンに基づき、町内状況などを把握したうえで、具体的取組の実施に向けて検討を行う。 【現状と課題】 継続した情報発信や体験観光メニューの開発、観光客の町内滞在時間を増やす対策が必要。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	11,359	7,404	8,014	7,075	13,871	8,000
国支出金	500	500	500	500	0	－
道支出金	0	0	0	0	2,700	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	7,700	1,418	1,500	1,300	4,147	－
一般財源	3,159	5,486	6,014	5,275	7,024	8,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	11,359	7,404	8,014	7,075	13,871	8,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	美幌峠における観光入込客数	目標	万人	73	70	70	70	70
		実績	万人	46	88.3	76.6		
		達成率	%	63.01	126.14	109.43		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	すでに関係団体と役割を分担しながら取り組んでいるため町が実施する事業については妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	観光客へPRするために、協議会に参画して広域で取り組むことは有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	広告などについて随時見直しを実施し適正な事業実施に努めている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 観光パンフレットの更新を行う			拡充
	予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 観光パンフレットの更新を行う	予算反映額（概　算）	5,500千円	
今後の改善点	コロナによる移動制限が解除され、美幌峠の入込数は回復したものの、観光客を街なかへの誘導する仕組み作りが課題である。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	観光団体等連携強化事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０６　観光の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０１　総合的な推進体制、ビジョンの確立		目	03	観光費
	施策(小)	０２　観光に係る企業、団体との連携強化		大事業	01	観光振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	－			
根拠法令等		経費区分	政策的経費			
事業概要	美幌観光物産協会と連携し、美幌町の特色を活かした魅力ある観光地づくりを実施するとともに、広域的な連携も視野に入れながら観光及び物産の振興を図る。					
事業目的	観光団体と連携し、美幌町観光革新戦略ビジョンを推進する。					
事業の対象	観光団体					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 観光団体への補助金・負担金支出 【現状と課題】 体験観光メニューや観光を担う人材が不足している。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	15,130	14,488	15,452	14,908	19,007	15,000
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	2,466	2,000	2,000	1,853	－
一般財源	15,130	12,022	13,452	12,908	17,154	15,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	15,130	14,488	15,452	14,908	19,007	15,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	観光物産協会・商工会議所との観光物産振興会議開催回数	目標	回	6	6	6	6	6
		実績	回	6	4	4		
		達成率	%	100	66.67	66.67		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	観光物産協会に対する運営負担であり、本町の観光振興を図るうえで必要なため妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	観光振興を図るために有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	団体に対し一定のルールに基づいた負担を定めており適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 観光物産協会は、平成３１年度からＪＲの乗車券販売を開始し、サイクルツアーなど新規事業が展開されている。	現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状の規模で事業を実施する。　予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点		引き続き各団体と連携し、観光革新戦略ビジョンを推進する。	

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	白樺並木街道の保全			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ	
				評価者名	経済部長　河端　勲	
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx	
	施策(大)	０６　観光の振興		項	xx	
	施策(中)	０２　既存施設や観光資源の保全、有効活用		目	xx	
	施策(小)	０２　美幌峠、美幌川などの観光資源の保全		大事業	xx	白樺並木街道の保全
事業期間	終期未定		令和５年度 ～ 令和８年度			
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等				経費区分	政策的経費	
事業概要	2019年3月、本町のカントリーサインが「美幌峠の眺望」とそこに繋がる白樺並木街道（「ロマンチック街道」）をイメージした内容に一新された。今後は、地域住民に配慮しながら交通支障木の維持管理（枝払い）を行うとともに、カントリサインをイメージした「旧福豊小学校から豊富神社手前の交差点までの直線」を「重点整備区間」（観光資源）として重点的に保全する。					
事業目的	景観を維持するため適切な維持管理（枝払い）を行う。					
事業の対象	町民、観光客					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 白樺へナンバリングを行い、白樺の台帳を作成した。台帳を作成したことで開発局及び北海道電力と協議する際に、支障となる白樺の管理を円滑に行うことができるようになった。 【現状と課題】 北海道開発局と協議を重ね、維持管理におけるそれぞれの役割を再認識した。美幌町としては景観美化の為に継続的な枝払いの実施する。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,100	1,100	1,100	1,100	1,496	1,100
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	1,100	1,100	1,100	1,100	1,496	1,100
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,100	1,100	1,100	1,100	1,496	1,100

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	ロマンチック街道白樺並木の剪定回数	目標	回数	1	1	1	1	1
		実績	回数	1	2	2		
		達成率	%	100	200	200		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	景観美化のために維持管理を町で行うことは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	沿線住民から支障木の相談が寄せられており、枝払いでは対応できない白樺が増えてきている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	１年に１回の枝払いは景観美化の為に必要である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 白樺以外の雑木を伐採し、景観美化を図る				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 白樺以外の雑木を伐採し、景観美化を図る	予算反映額（概　算）	396千円		
今後の改善点	沿線に白樺以外の雑木が目立ってきており、景観のための伐採が必要である。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	宿泊施設誘致推進事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０６　観光の振興		項	xx		
	施策(中)	０３　観光情報の提供、サービスの向上		目	xx		
	施策(小)	０４　宿泊施設の誘致		大事業	xx	宿泊施設誘致推進事業	
事業期間	終期未定		～ 令和５年度				
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	関係団体と連携し、宿泊施設を誘致する。						
事業目的	町内において新規宿泊施設の誘致に努める。 宿泊需要の喚起を図る。						
事業の対象	新規進出業者、宿泊事業者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 令和５年度、グランドホテル跡地に全49室のホテルが建設された。 【現状と課題】 今後、宿泊者のニーズ等について情報交換を行う必要がある。						
事業進捗度	１　予定を上回る成果があり、良好な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	0	0	0	0
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	宿泊施設事業者との懇談会数	目標		1	3	3	3	3
		実績		1	1	7		
		達成率	%	100	33.33	233.33		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	検討	町が必要とする規模の宿泊施設に建設に対する補助を検討する。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	現有の宿泊施設に対する公平性が必要。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	町内の宿泊施設が満室で他自治体の宿泊施設を利用していることが多々あり、経済効果を生み出すために誘致が必要。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　○　現状維持　●　縮小　○　休止・廃止 新たな事業者より提案があった場合には協議する。				縮小
予算	○　拡充　○　現状維持　●　縮小　○　皆減 必要に応じ予算措置を検討する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	町が必要とする宿泊施設（規模や設備）を精査する必要がある。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	滞在型観光推進事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０６　観光の振興		項	xx		
	施策(中)	０３　観光情報の提供、サービスの向上		目	xx		
	施策(小)	０５　宿泊施設の確保・利用促進		大事業	xx	滞在型観光推進事業	
事業期間	７年度		平成２８年度 ～				
要求区分	継続		町長重点政策	○			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	関係団体等と連携を図りながら、「滞在型観光」や「滞留型・体験型観光」を推進する。						
事業目的	滞留時間の長い観光資源にする。						
事業の対象	観光資源						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 関係団体等と連携を図りながら取り組む。 【現状と課題】 観光団体において体験メニューの開発や滞在型観光に取り組んでいる。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	4,024	12,974	0	0	0	0
国支出金	－	0	0	－	0	－
道支出金	－	0	0	－	0	－
地方債	－	0	0	－	0	－
その他	－	7,982	0	－	0	－
一般財源	4,024	4,992	0	0	0	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	4,024	12,974	0	0	0	0

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	ツアー参加者数（令和２年度から事業化）	目標		200	250	250	250	250
		実績		109	134	194		
		達成率	%	54.5	53.6	77.6		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	新たな観光施策であることからガイド事業者に対し当面支援が必要。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	滞在型観光は町内経済の波及効果も見込まれることから有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	主に企業版ふるさと納税を財源に事業を推進している。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現行の予算内で事業を実施する。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行の予算内で事業を実施する。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	ツアー実施に伴う受入体制の構築が課題である。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	地域特産品開発推進事業		課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
			評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	07	商工費
	施策(大)	０７　地域特産品の振興		項	01	商工費
	施策(中)	０１　地域特産品の開発・育成		目	02	商工業振興費
	施策(小)	０１　研究機関、大学等との連携による開発支援		大事業	02	商工業活性化促進事業
事業期間	終期未定		平成２８年度 ～			
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町地域特産品開発支援事業補助金交付要綱		経費区分	政策的経費		
事業概要	平成２９年度から開始した美幌ブランド認証制度と連携し、本町の質の高い農畜産物をはじめ、地域資源を活用した特産品開発を支援し、官民一体となった特産品の開発を支援する。 また、ホームページなどを活用した特産品のＰＲ及び販路拡大の促進を図る。					
事業目的	消費、販路拡大につなげる					
事業の対象	新規特産品開発又は既存特産品を改良する事業者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 新規特産品開発及び既存特産品に取り組む事業者に対し支援を行った。 【現状と課題】 多額の費用を要する新たな特産品開発及び既存特産品の改良を支援することが必要。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,498	1,000	1,515	132	1,933	1,933
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	1,000	133	1,000	120	1,300	－
一般財源	498	867	515	12	633	1,933
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,498	1,000	1,515	132	1,933	1,933

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	特産品開発等の支援件数	目標	件	4	4	4	4	4
		実績	件	3	2	1		
		達成率	%	75	50	25		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	美幌町の特産品開発のための支援であり妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	経費の助成を行うことにより、新たな特産品開発を促す制度であり、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	補助対象経費の３/４で上限を５０万円として定めており、他の自治体等と比較しても経費は妥当である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 制度の周知方法を検討する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行の補助制度を維持する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	審査するにあたり、審査項目の見直しや過去に支援した事業者に対し事業効果を検証する必要がある。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	物産関連イベント参加促進事業			課・グループ名	商工観光課商工観光グループ		
				評価者名	経済部長　河端　勲		
総合計画	基本目標	０３　まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり	予算科目	款	xx		
	施策(大)	０７　地域特産品の振興		項	xx		
	施策(中)	０２　地域特産のＰＲ・販売		目	xx		
	施策(小)	０２　物産展･物産関連イベントの参加促進		大事業	xx	物産関連イベント参加促	
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	－			
根拠法令等				経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌観光物産協会と連携し、町内業者が、各物産関連イベントに参加出来るようにする。						
事業目的	各物産関連イベントに積極的に参加する。						
事業の対象	町内業者						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 美幌観光物産協会と連携し、物産関連イベントの情報を発信し、イベント参加時の経費を支援した。 【現状と課題】 経費がかかってしまうため道外イベントに出店する事業者が少ない。道外に対する美幌町の知名度向上のため、負担額の見直しが必要である。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	84	526	1,087	972	1,400	1,400
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	84	526	1,087	972	1,400	1,400
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	84	526	1,087	972	1,400	1,400

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	イベント参加事業者数	目標	回	1	7	7	7	7
		実績	回	2	10	12		
		達成率	%	200	142.86	171.43		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	遠方の人に対して直接賞品をPRすることができるため一定の支援は必要である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	旅費・配送料を町で支援することでイベントへの参加を促すことに寄与している。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	イベントにおける商品の販売だけでなく、地域のPRも行うことができる。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 道外出展への助成上限額を見直す。				拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 コロナ禍以前と同様の催事が開催されており、出展希望者も増加していることから予算を増額する。	予算反映額（概　算）	600千円		
今後の改善点	助成制度を広く周知する方法を検討する。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	道路橋梁整備事業		課・グループ名	環境管理課維持管理グループ		
			評価者名	建設部長　遠國　求		
総合計画	基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目	款	08	土木費
	施策(大)	０１　道路網の整備		項	02	道路橋梁費
	施策(中)	０２　町道の整備		目	02	道路橋梁維持費
	施策(小)	０１　計画的な町道整備（道路附帯施設含む）・（橋梁）維持補		大事業	01	道路橋梁維持管理事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策　○				
根拠法令等			経費区分	投資的経費		
事業概要	道路機能維持のため、町道の補修を行う。					
事業目的	道路等を良好な状態に保ち、安全で円滑な交通を確保する。					
事業の対象	町道及び橋梁利用者					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 道路及び橋梁の改良工事等により、安全な通行を確保できた。 【現状と課題】 道路、橋梁が老朽化している。					
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	財源不足	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	13,787	28,408	33,000	28,057	25,000	41,000
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	13,787	28,408	33,000	28,057	25,000	41,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	13,787	28,408	33,000	28,057	25,000	41,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	町道補修件数	目標	箇所	8	12	7	8	7
		実績	箇所		12	7		
		達成率	%		100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町道管理のため、道路管理者である町が実施すべきである。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	日々のパトロール等で発見した箇所を補修している。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	入札の実施により適正な費用である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続きパトロール等で発見された補修箇所を確認し、必要に応じ実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 補修箇所によって予算額の増減はあるものの、必要に応じ補修する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	長寿命化を見据えた計画的な補修の実施				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	橋梁・トンネル長寿命化事業	課・グループ名	建設課・都市整備グループ		
		評価者名	建設部長　遠國　求		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目 款	08	土木費	
施策(大)	０１　道路網の整備	予算科目 項	02	道路橋梁費	
施策(中)	０２　町道の整備	予算科目 目	02	道路橋梁維持費	
施策(小)	０１　計画的な町道整備（道路附帯施設含む）・（橋梁）維持補	予算科目 大事業	02	道路橋梁補修事業	
事業期間	終期未定	平成２８年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	道路法	経費区分	投資的経費		
事業概要	老朽化した道路橋について、補助事業を活用し、計画的に予防保全型修繕を実施することで、延命化と維持管理コストの縮減及び平準化を図る。 ※ 計画名：美幌町橋梁長寿命化修繕計画 （計画期間：R5～R14、計画策定：R4、点検：R3～R4） 橋梁数：107橋（うち修繕対象判定Ⅲ：30橋）				
事業目的	安全で安心な道路（橋）サービスの提供				
事業の対象	道路橋（利用者）				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 点検結果により適切な補修方法を選択、補助事業を活用して、コスト削減を図りながら橋梁補修をすすめる。 【現状と課題】 構造により異なるが、耐用年数の目安である築後50年を経過する橋梁が17橋存在し、今後架け替え含めた、補修対象の道路橋の増加が見込まれること				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	61,677	96,123	33,180	29,678	50,160	51,700
国支出金	36,000	57,618	16,230	17,778	20,500	27,910
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	16,100	19,800	16,800	11,800	20,500	20,100
その他	0	73	0	0	0	0
一般財源	9,577	18,632	150	100	9,160	3,690
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	61,677	96,123	33,180	29,678	50,160	51,700

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	橋梁修繕	目標	橋	1	1	1	1	1
		実績	橋	1	1	1		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	町道橋梁補修事業の実施は道路管理者（町）が行い、事前の点検結果により、適切な手法を選択し、実施している。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	橋梁長寿命化修繕計画により適切なストック点検のもと、橋梁補修事業実施で安全確保が図られる。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	財源は補助事業を活用しており、かつ予防保全型修繕による長期的な維持補修費の縮減と平準化が図られている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 ５年に１度の点検結果及び計画見直しに基づき、交通量や危険度など総合的に優先順位を判断し、事業を実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 道路メンテナンス補助金（国交省補助金）、過疎ハード（起債）	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	将来を見据えた長寿命化と橋梁架け替えの判断				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	道路整備事業（単独）	課・グループ名	建設課都市整備グループ		
		評価者名	建設部長　遠國　求		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目	款	08	土木費
施策(大)	０１　道路網の整備		項	02	道路橋梁費
施策(中)	０２　町道の整備		目	03	道路橋梁新設改良費
施策(小)	０１　計画的な町道整備（道路附帯施設含む）・（橋梁）維持補		大事業	01	道路整備事業
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	道路法	経費区分	投資的経費		
事業概要	幹線道路及び地域道路網（歩道含む）の整備工事について、損傷度に応じた工法（改良工事・オーバーレイなど）及び計画的な事業実施により、安全で安心な道路サービスの提供を図る。なお、道路整備計画については、損傷状況や交通量等を鑑み、優先順位を決めて整備を行う。 ※ 財源　新設・改良工事：過疎債（ハード） オーバーレイ　：過疎債（ソフト）（R5は事業なし）				
事業目的	安全で安心な道路サービスの提供				
事業の対象	町道（利用者）				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 損傷状況に応じて、改良工事・オーバーレイ等の適切な工法により道路補修を実施し、交通の利便性が向上した。 また、歩道の新設により、歩行者の安全性向上が図られた。 【現状と課題】 道路整備後、経年劣化等による補修対象路線は増加する一方、財政負担及び技術職員の不足による事業量の確保				
事業進捗度	3　一部で予定どおり進んでおらず、やや遅れている	進捗度３又は４の理由	財源不足	左の具体的な内容	改良が必要な箇所の増による財源不足 （上記同様、人員不足も理由）

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	141,053	64,713	135,000	120,626	185,950	272,000
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	140,700	64,600	135,000	120,400	185,900	272,000
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	353	113	0	226	50	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	141,053	64,713	135,000	120,626	185,950	272,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	町道整備延長	目標	m	1,032	225	478	968	3,565
		実績	m	112	225	478		
		達成率	%	10.85	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	道路管理者（町）が行うべきものであり、道路の交通量・損傷状況等に応じて実施のタイミング等を判断し、実施している。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	路線の状況に応じた適切な工法（道路改良・オーバーレイ・歩道整備など）により実施している。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	道路交通量や損傷状況を加味した上で整備路線を決定していることや、積算は道単価を適用し決定していることから適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 道路インフラは町民生活にとって必要であること、公共工事という役割からも事業費は一定規模必要であるため、現状維持とする。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 実施箇所によっては予算額の増減はあるものの、必要に応じて実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	技術職員の人材確保等による必要予算・事業費の確保、立地適正化計画策定後の道路含めたインフラ整備の優先順位・整備手法の決定				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	除雪対策事業	課・グループ名	環境管理課維持管理グループ		
		評価者名	建設部長　遠國　求		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目	款	08	土木費
施策(大)	０２　除排雪体制の充実		項	02	道路橋梁費
施策(中)	０１　除雪体制の充実		目	02	道路橋梁維持費
施策(小)	０１　除雪計画と除雪体制の随時見直し		大事業	03	除雪対策事業
事業期間	単年度				
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	市街地を7地区に分け直営、民間7社で、郊外地区を直営5地区、歩道を直営、民間2社に分けて冬期間の除雪作業を行っている。（除雪延長は市街地区が113km、郊外地区が266km、計379km） また、路面凍結時の砂撒きや堆雪状況に応じた排雪作業を行っている。				
事業目的	冬期間の円滑な交通環境を確保する。				
事業の対象	町道利用者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 降雪状況、堆雪状況に応じて除排雪を実施し、住民生活と安全な道路交通を確保した。 【現状と課題】 直営、民間7社で実施している。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	111,041	84,233	128,463	97,643	122,617	0
国支出金	2,924	800	3,600	0	3,600	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	108,117	83,433	124,863	97,643	119,017	0
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	111,041	84,233	128,463	97,643	122,617	0

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 一斉除雪実施回数	目標	回	5	5	5	5	5
	実績	回	9	6	6		
	達成率	%	180	120	120		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	道路管理者である町が実施すべきである。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	概ね通勤時間帯までに除雪を終えている。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	直営・民間と役割分担をし実施している。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 引き続き、降雪、堆雪状況に応じ除雪事業を実施する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 降雪状況によって予算額の増減はあるものの、引き続き事業を実施する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	直営及び民間を含めた更なる効果的な除雪体制の検討				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	住宅リフォーム促進補助事業	課・グループ名	建設課建築グループ		
		評価者名	建設部長　遠國　求		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目 款	08	土木費	
施策(大)	０６　住宅環境の整備	予算科目 項	05	住宅費	
施策(中)	０２　民間住宅･宅地整備の推進	予算科目 目	01	住宅総務費	
施策(小)	０１　住宅リフォーム制度の充実支援と耐震改修促進	予算科目 大事業	01	建築事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	美幌町住宅リフォーム促進補助金交付要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	住環境の整備と地域経済の活性化を目的に、住宅のリフォーム工事に対し補助金を交付。 30万円以上の工事に対し20%（補助金の上限は50万円） 平成23年度から実施している事業で、令和5年度までの13カ年で1,528件、実績工事費3,653,217千円、494,545千円の補助金を交付。				
事業目的	安全・安心・快適な住環境を整備し、居住満足度の向上を図る。				
事業の対象	町内に存する住宅を所有し、現に居住している町民。				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 補助金を交付することで、リフォーム意欲を喚起する。 【現状と課題】 年平均120件の実績があり、今後も年100件程度は需要があるものと見込んでいる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	28,778	30,462	34,600	34,090	34,600	34,600
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	2,313	2,185	2,185
地方債	28,700	30,400	34,600	31,700	32,400	32,400
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	78	62	0	77	15	15
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	28,778	30,462	34,600	34,090	34,600	34,600

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	住宅リフォーム助成件数	目標	件	90	90	100	100	100
		実績	件	89	93	117		
		達成率	%	98.89	103.33	117		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	安全で快適な住環境を確保し、環境負荷の低減及び地域経済の活性化を図る観点から、行政が主体となることが妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	住環境の整備と地域経済の活性化に貢献しているため有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	住宅リフォーム促進補助金交付要綱に基づく改修費用が対象。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 住環境の向上と地域経済の活性化に寄与するものと考えており、令和5年度に制度内容の見直しを行った。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 補助対象工事費の引下げや事業の再度利用を認めたことにより件数100件を見込み、1件あたりの補助金額は事業の過去実績から346千円として算出している。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	需要予測を続け、制度内容の見直しについて検討を行う。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	住宅耐震改修等補助事業	課・グループ名	建設課建築グループ		
		評価者名	建設部長　遠國　求		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目 款	08	土木費	
施策(大)	０６　住宅環境の整備	予算科目 項	05	住宅費	
施策(中)	０２　民間住宅･宅地整備の推進	予算科目 目	01	住宅総務費	
施策(小)	０１　住宅リフォーム制度の充実支援と耐震改修促進	予算科目 大事業	01	建築事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等	美幌町耐震改修促進計画に基づく美幌町住宅耐震改修補助金交付要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	耐震化を促進し、安全な住環境を確保する。				
事業目的	耐震改修工事を行う事により、耐震性能を向上を目的とする。				
事業の対象	町内に存する旧耐震基準の木造住宅に居住する町民。				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 補助金を交付することで、住宅の耐震化の意欲を向上を喚起する。 【現状と課題】 これまでに当該事業の活用は無く、対象となる旧耐震の住宅の減少等も理由の一つに挙げられると考えるが、地震が少ない地域性であることが最大の要因と考える。				
事業進捗度	4　予定どおりに進んでおらず、遅れている	進捗度３又は４の理由	その他	左の具体的な内容	当該事業を適用する住宅の申し出が無い。

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	903	0	903	903
国支出金	0	0	225	0	222	222
道支出金	0	0	451	0	445	445
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	0	227	0	236	236
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	903	0	903	903

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	住宅耐震改修補助件数	目標	件	1	1	3	3	3
		実績	件	0	0	0		
		達成率	%	0	0	0		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	住宅の耐震化を促進し、安全な住環境を確保する観点から、行政が主体となることが妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	耐震改修促進のために有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	住宅耐震改修補助金交付要綱に基づく改修費用が対象。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現在まで実績はないが、美幌町耐震改修促進計画に基づき、住宅施策の一環ととらえ、令和5年度に制度内容の見直しを行ったことから現状維持が妥当と考える。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 耐震診断(1件)、耐震設計(1件)、耐震改修(1件)として算出している。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	広報やホームページなどによる情報発信を行う。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	空き家対策事業	課・グループ名	政策推進課政策統計グループ		
		評価者名	総務部長　那須　清二		
総合計画 基本目標	０４　住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり	予算科目 款	02	総務費	
施策(大)	０６　住宅環境の整備	予算科目 項	01	総務管理費	
施策(中)	０３　空き家対策	予算科目 目	05	企画費	
施策(小)	０１　空家等に関する施策の総合的かつ計画的な実施	予算科目 大事業	01	政策推進事業	
事業期間	終期未定	平成２９年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	空家等対策の推進に関する特別措置法	経費区分	政策的経費		
事業概要	関係団体及び関係部局と連携を図り、適切に管理されていない老朽家屋等の把握を行い、適正な管理を促す。 また、空き家対策関連の補助制度を継続して実施し、不良住宅等の解消及び空き家の有効活用を図り、空き家の解消を促進する。				
事業目的	空き家の適正管理				
事業の対象	町内にある老朽家屋（空き家）等				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 除却支援制度により、不良住宅等の解消が図られた。 また、利活用支援制度により、空き家を活用した移住体験住宅が整備された。 【現状と課題】 空き家発生の抑制、利活用及び不良住宅の除却促進 民間不動産事業者等との連携体制の構築				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	4,720	8,338	10,121	9,287	11,211	13,584
国支出金	2,099	4,077	5,000	4,625	5,500	6,750
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	2,000	2,000	2,000	4,000	0
一般財源	2,621	2,261	3,121	2,662	1,711	6,834
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	4,720	8,338	10,121	9,287	11,211	13,584

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 支援制度活用による除却棟数	目標	棟	8	8	8	8	8
	実績	棟	6	5	8		
	達成率	%	75	62.5	100		
指標2 支援制度活用による利活用棟数	目標	棟		2	1	1	1
	実績	棟		1	1		
	達成率	%		50	100		
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	民間事業者との連携の下、行政が総合窓口として事業を担うことについては、昨今の情勢を勘案しても、妥当。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	個人財産であることから、全てを解決することは困難で有るが、今やるべき手段は概ね実施しており、有効性は普通。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	検討	除却への税投資に対して、固定資産税の減収と捉えると、費用と成果のバランスを評価することは難しいため、検討。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 美幌町空家等対策計画に基づいた空き家対策（保全・利活用・除却）の推進をリーフレット等を活用して推進するとともに、空き家対策関連の補助制度を見直し、更なる不良住宅等の解消及び空き家の有効活用を図り、空き家の解消を促進する			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 前年度同様、不良住宅等の除却支援制度及び空き家の利活用制度を実施する。不良住宅等の除却支援制度については、予算枠を8棟から10棟に拡充して実施する	予算反映額（概　算）	1,090千円	
今後の改善点	危険住宅の解消に向けた段階的な対策及び空き家利活用方法の検討。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	小中学校給食費支援事業	課・グループ名	学校給食課学校給食グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目 款	10	教育費	
施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実	予算科目 項	05	保健体育費	
施策(中)	０２　小中学校の教育環境の充実	予算科目 目	03	学校給食センター費	
施策(小)	０４　多子世帯に対する支援	予算科目 大事業	01	学校給食運営事業	
事業期間	８年度	令和２年度 ～ 令和８年度			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等	美幌町学校給食費補助事業実施要綱	経費区分	政策的経費		
事業概要	小中学校の保護者の方の経済的負担を軽減し、子育て支援として、学校給食費について、第１・２子は半額補助を行い、第３子以降については、全額補助により給食費の無償化を行う。 【実績】令和５年度 第１・２子半額補助　803人　10,127千円 第３子以降全額補助　135人　6,408千円 合計　938人　16,535千円				
事業目的	該当者する保護者から補助申請を受け付け、学校給食費の半額・全額を補助する。				
事業の対象	小中学生の学校給食費費を支払している保護者				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 対象となる世帯の保護者へ補助金を交付。第３子以降の小中学生給食費の無償化、及びその他の対象者は、１０月から半額負担となり子育て支援を図った。 【現状と課題】 保護者から喜ばれており、事業継続は必要である。保護者申請により補助決定のため、申請漏れの確認に要していることが課題である。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	6,792	6,582	7,167	16,541	27,964	27,000
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	1,056	0	0	0	0	－
一般財源	5,736	6,582	7,167	16,541	27,964	27,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	6,792	6,582	7,167	16,541	27,964	27,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	対象世帯が補助金申請を行った割合	目標	%	100	100	100	100	100
		実績	%	100	100	100		
		達成率	%	100	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	子育て支援が求められている中、今後とも継続させる必要があり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	対象となる全ての世帯へ補助がされており有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	対象経費を給食費に限定することで、効率性は高く経費も適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容				
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 令和5年10月より対象者を拡充。令和6年度についても継続して実施する。			評価結果
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 令和5年10月より対象者を拡充。令和6年度についても継続して実施する。	予算反映額（概　算）	0千円	現状維持
今後の改善点	申請手続きの効率化			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	外部講師活用事業		課・グループ名	学校教育課学校教育グループ		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	01	教育総務費
	施策(中)	０３　小中学校の教育内容の充実		目	03	教育振興費
	施策(小)	０１　地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実		大事業	02	学校教育振興事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続		町長重点政策	－		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	地域の協力のもと、水泳、スキー、スケート授業等において、外部講師によるグループでの個別指導を行い、効果的な授業内容の充実を図るとともに、博物館との連携による体験授業や「総合的な学習の時間」における児童生徒の興味関心に基づいた課題解決型の授業を進める。					
事業目的	地域資源（自然、環境、人）を活用した学校教育の充実を図る。					
事業の対象	児童・生徒					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 各種競技団体からの外部講師や博物館学芸員と連携し「地域とともにある学校づくり」に取り組んだ。 【現状と課題】 外部講師のなり手不足と高齢化等に伴う人材確保が課題である。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	405	482	678	377	766	766
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	500	337	500	0
一般財源	405	482	178	40	266	766
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	405	482	678	377	766	766

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	外部講師の派遣	目標	名	32	19	32	32	32
		実績	名	19	22	28		
		達成率	%	59.38	115.79	87.5		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	地域連携のもと、専門知識・技能を習得することが可能となり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	外部講師による指導は、児童生徒の成長、学校教育の充実につながるため、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費は適正人数及び回数による負担金等となっており、適正な経費と考える。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	外部講師の確保は厳しくなっているが、児童生徒の体力向上・技術向上を図るため、関係団体の理解と協力を得られるように働きかけを行い、質の高い授業の実施に取り組む。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	学校運営改善事業			課・グループ名		学校教育課学校教育グループ	
				評価者名		教育部長　遠藤　明	
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり		予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実			項	01	教育総務費
	施策(中)	０３　小中学校の教育内容の充実			目	03	教育振興費
	施策(小)	０４　地域と一体となった学校づくりの推進			大事業	02	学校教育振興事業
事業期間	終期未定						
要求区分	継続		町長重点政策	－			
根拠法令等	学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律			経費区分	政策的経費		
事業概要	学校は、教育活動やその他の学校運営について、地域の教育力を積極的に活用しながら「地域とともにある学校づくり」を推進する必要があることから、学校運営協議会制度を活用し、地域の教育力の向上を図る。 各学校運営協議会の開催を進めるとともに、地域応援団や、学校運営協議会間で連携会などにより小中連携を強化し、学校、地域、家庭の連携を深めていく。						
事業目的	「地域とともにある学校づくり」を推進する。 学校（教育）、地域（協育）、保護者（共育）による３つの教育ネットワークを構築する。						
事業の対象	学校運営協議会委員、地域住民、保護者、教職員						
実施結果・現状と課題	【実施結果】 学校運営協議会の開催や、３つのきょういく応援団との連携により、学校と地域と情報共有や委員の資質向上が図られた。 【現状と課題】 本協議会について地域へ更なる周知と、学校間の連携強化が課題。						
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	250	393	1,370	412	1,260	1,260
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	250	393	1,370	412	1,260	1,260
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	250	393	1,370	412	1,260	1,260

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	学校運営協議会委員の委嘱	目標	名	56	53	54	50	50
		実績	名	53	54	48		
		達成率	%	94.64	101.89	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	学校と地域が目標を共有し、一定の権限を持って学校運営に参画するために、学校運営協議会委員を委嘱することは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	美幌町の子どもを地域で育てる仕組みの構築や、地域の力で児童生徒のさらなる成長が期待できることから、有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	費用は、委員の出席報償と外部講師の保険料、活動経費であり、地域活動等を行っていく上で適正と考える。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 地域の子どもは地域で育てる仕組みづくりのため、「３つのきょういく応援団」を活用し、地域に開かれた信頼に応える学校づくりを推進していく。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	学校運営協議会連携会において、学校間の取組みや課題の共有することで各協議会の課題解決を図る。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	少人数学級推進事業		課・グループ名	学校教育課・学校教育グループ	
			評価者名	教育部長　遠藤　明	
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10　教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	01　教育総務費
	施策(中)	０３　小中学校の教育内容の充実		目	03　教育振興費
	施策(小)	０９　少人数学級の推進		大事業	02　学校教育振興事業
事業期間	終期未定	令和４年度 ～			
要求区分	新規	町長重点政策　○			
根拠法令等	学校教育法	経費区分	政策的経費		
事業概要	児童一人ひとりが基本となる生活習慣や社会規範を身に付けることができるよう、町独自で臨時教諭を配置し、小学校第１学年を対象に少人数学級（３０人以下）を実施する。				
事業目的	児童の学力及び体力を向上させると共に、不登校やいじめなどの未然防止を図る。				
事業の対象	小学校の児童				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 小学校第１年生を対象としたに少人数学級（３０人以下）を実施することで、児童一人ひとりによりきめ細かな指導を行うことができた。 【現状と課題】 引続き、少人数によるきめ細かな教育支援を行い、学習環境を整えることが必要だと考える。				
事業進捗度	２　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	4,892	5,830	6,104	12,975	12,975
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	4,892	5,830	6,104	12,975	12,975
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	4,892	5,830	6,104	12,975	12,975

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	町費負担教員（臨時教員）の配置	目標	名	1	1	1	2	2
		実績	名	0	1	1		
		達成率	%	0	100	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	きめ細かな学習環境を整え、基礎学力を定着させることにより、学力向上を目指すには妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	本事業は、児童の成長や学力向上につながるため、有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	経費は、人件費のみであり、削減の余地はないと考える。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 小学校第１学年を対象とした少人数（３０人以下）学級を第２学年まで拡大することで、未来を担う美幌町の子どもたちによりきめ細かで質の高い教育を行う。			拡充
予算	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　皆減 小学校第２学年まで少人数（３０人以下）学級を拡大することから、予算を拡充する。	予算反映額（概　算）	7,145千円	
今後の改善点	子どもたちにきめ細かで質の高い教育を提供していくため、各学校と引き続き連携体制を確立していく。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	小学校図書充実事業		課・グループ名	学校教育課総務グループ		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	02	小学校費
	施策(中)	０３　小中学校の教育内容の充実		目	02	教育振興費
	施策(小)	１１　読書活動の推進		大事業	01	小学校教材整備事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	新学習指導要領において、学校図書館・学校図書の利用についての記述があり、また、「学校図書館ガイドライン」においても学校図書の充実が求められている状況である。このことから、学校図書館法に基づき、学校教育において欠くことのできない学校図書及び学校図書館機能の充実を図る。					
事業目的	学校図書館の充実により、児童生徒の読書活動を推進し、読書の習慣化及び学力の向上に繋げる。					
事業の対象	小学校全児童					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 小学校巡回司書を新たに雇用し配置を行った。 【現状と課題】 現在は学校司書１名が各小学校を巡回しているが各小学校１名の配置には至っていないため、計画的な環境整備を検討する必要がある。					
事業進捗度	２　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	437	888	2,148	936	1,501	1,501
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1,500	300	1,000	1,000
一般財源	437	888	648	636	501	501
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	437	888	2,148	936	1,501	1,501

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標１	学校図書館の蔵書数	目標				29,080	29,280	29,280
		実績				23,130		
		達成率	%			79.54		
指標２		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標３		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	文科省から学校図書館における書籍の整備充実等が求められているため、町が支援することは妥当と考える。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	書籍の整備充実を図るためにも適切な廃棄更新が必要であり有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	書籍の適切な廃棄更新を行うことで学校図書の充実が図られることから効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	蔵書数が増加していくよう今後も適切な書籍の適切な更新等を進めていく。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	中学校図書充実事業		課・グループ名	学校教育課・総務グループ		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	03	中学校費
	施策(中)	０３　小中学校の教育内容の充実		目	02	教育振興費
	施策(小)	１１　読書活動の推進		大事業	01	中学校教材整備事業
事業期間	単年度					
要求区分	継続		町長重点政策	○		
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	新学習指導要領において、学校図書館・学校図書の利用についての記述があり、また、「学校図書館ガイドライン」においても学校図書の充実が求められている状況である。このことから、学校図書館法に基づき、学校教育において欠くことのできない学校図書及び学校図書館機能の充実を図る。					
事業目的	学校図書館の充実により、児童生徒の読書活動を推進し、読書の習慣化及び学力の向上に繋げる。					
事業の対象	中学校全生徒					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 調べ学習の強化を図るため、調べ学習用図書の充実及び授業をサポートするデジタル教材の導入を実施した。また、文科省の通知に基づき中学校は３紙以上の新聞配備が求められていることから新聞配備の増を実施した。 【現状と課題】 蔵書数が増加していくよう引き続き書籍の更新等を進めていく必要がある。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	195	380	2,195	972	1,643	1,643
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1,000	215	1,000	1,000
一般財源	195	380	1,195	757	643	643
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	195	380	2,195	972	1,643	1,643

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	学校図書館の蔵書数	目標				21,440	20,880	20,880
		実績				11,978		
		達成率	%			55.87		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	文科省から学校図書館における書籍の整備充実等が求められているため、町が支援することは妥当と考える。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	書籍の整備充実を図るためにも適切な廃棄更新が必要であり有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	書籍の適切な廃棄更新を行うことで学校図書の充実が図られることから効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容			評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。		現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当である。	予算反映額（概　算）　0千円	
今後の改善点	蔵書数が増加していくよう今後も書籍の適切な更新等を進めていく。		

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	小中一貫教育推進事業		課・グループ名	学校教育課総務グループ	
			評価者名	教育部長　遠藤　明	
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	xx
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	xx
	施策(中)	０５　高等学校教育の充実		目	xx
	施策(小)	０１　間口確保や教育施設・設備の充実		大事業	xx　小中一貫教育推進事業
事業期間	単年度				
要求区分	新規		町長重点政策	○	
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	教育環境の向上と９年間を見通した連続性のある教育活動の推進を目的とした小中一貫教育の導入に向け必要な手立てを図る。				
事業目的	児童生徒の教育環境の向上				
事業の対象	児童生徒、保護者、地域住民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 小中一貫教育の導入に向け、先進校の視察を実施した。 【現状と課題】 小中一貫教育推進のための柱となる「小中一貫教育推進ビジョン」を策定後、義務教育学校の開校に向けた基本構想の策定にスピード感を持って取り組む必要がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	0	697	298	500	500
国支出金	－	－	0	－	0	－
道支出金	－	－	0	－	0	－
地方債	－	－	0	－	0	－
その他	－	－	0	－	0	－
一般財源	0	0	697	298	500	500
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	0	697	298	500	500

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	検討会議等の実施	目標	回		5	30	30	30
		実績	回		1	20		
		達成率	%		20	66.67		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	近年の少子化を背景に、児童生徒にとってより良い教育環境を提供していくため、小中一貫教育の導入が必要と考える。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	道内外先進校の視察や検討会議等により十分な調査研究・協議を行うことが有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	先進校の視察により現場の実態を直接確認することができ、課題点等の整理のための費用対効果は高いと考える。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 先進校の視察、検討会議等を通じ、小中一貫教育推進ビジョンを策定する。ビジョン策定後、義務教育学校の開校に向けた基本構想の策定にスピード感を持って取り組む。			改善
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 先進校の視察、研修講演会、義務教育学校整備打合せ経費を計上。予算規模は現状変わらないが、基本構想の策定等にスピード感を持って取り組む。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	小中一貫教育推進及び義務教育学校整備に係る課題点等の整理、関係者との十分な協議や調整が必要である。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	教育振興事務	課・グループ名	学校教育課総務グループ
		評価者名	教育部長　遠藤　明

総合計画		予算科目		
基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	款	10	教育費
施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実	項	01	教育総務費
施策(中)	０５　高等学校教育の充実	目	03	教育振興費
施策(小)	０１　間口確保や教育施設・設備の充実	大事業	01	教育振興事業

事業期間	単年度		
要求区分	継続	町長重点政策	－
根拠法令等		経費区分	政策的経費
事業概要	(1)町内唯一の高校である美幌高等学校の魅力ある高校づくりを支え、生徒確保に向けた必要な手立てを図る。 (2)奨学金貸与制度により経済的理由により修学が困難な者に対して等しく教育機会を与えるための支援を行う。		
事業目的	美幌高等学校の魅力化に対する各種支援を図ることによる生徒の確保。また、経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学金を貸与することで教育機会の確保を図る。		
事業の対象	生徒、保護者、美幌高等学校		
実施結果・現状と課題	【実施結果】 美幌町奨学金貸与制度を活用し奨学金を貸与した。また、美幌高校の生徒確保のための高校の魅力を町内外に発信するとともに各種支援策を行った。 【現状と課題】 地域みらい留学制度の活用や学校訪問等の成果により、入学者増の兆しが見られるものの、依然として定員割れが続いていることから、生徒確保のための取り組みをさらに強化していく必要がある。		
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－
左の具体的な内容			

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	13,455	21,919	19,642	16,036	15,240	15,240
国支出金	0	579	440	642	577	577
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	10,348	2,019	2,006	2,001	5,106	5,106
一般財源	3,107	19,321	17,196	13,393	9,557	9,557
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	13,455	21,919	19,642	16,036	15,240	15,240

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	美幌高等学校入学者数	目標	名	80	80	80	80	80
		実績	名	57	67	46		
		達成率	%	71.25	83.75	57.5		
指標2	報徳寮入寮者数	目標	名	6	10	10	20	20
		実績	名	5	11	13		
		達成率	%	83.33	110	130		
指標3	奨学金貸与者数	目標	名	8	8	8	8	8
		実績	名	5	6	5		
		達成率	%	62.5	75	62.5		

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	教育を受ける機会の確保及び美幌高校の生徒確保のために町が支援することは、地域を担う人材育成の観点から妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	奨学金については条例第１０条に基づく選考を行っており、美幌高校支援については事業計画等の審査を行っており適切である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	奨学金については教育を受ける機会の確保、美幌高校支援については生徒確保に繋がることから効果は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	●　拡充　○　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 地域みらい留学事業の充実及び町外入学生徒の住居確保対策等を通じ、生徒確保に向けた取り組みを強化する。			改善
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 地域みらい留学事業の充実及び町外入学生徒の住居確保対策等を通じ、生徒確保に向けた取り組みを強化する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	各種支援策の効果検証を十分に行い、限られた予算の中で生徒確保のための効果的な支援内容を検討する必要がある。			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	高校生食育推進事業		課・グループ名	学校給食課学校給食グループ	
			評価者名	教育部長　遠藤　明	
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10　教育費
	施策(大)	０１　幼稚園、学校教育の充実		項	05　保健体育費
	施策(中)	０５　高等学校教育の充実		目	03　学校給食センター費
	施策(小)	０１　間口確保や教育施設・設備の充実		大事業	01　学校給食運営事業
事業期間	３年度	令和２年度 ～ 令和８年度			
要求区分	継続	町長重点政策	ー		
根拠法令等			経費区分	政策的経費	
事業概要	美幌高等学校が生産した小麦を使用して商品化した美高うどん、美高らーめんを、生徒自身に食してもらう食育を目的とするとともに、魅力ある高校づくりを支え、生徒確保に向けた施策として実施する。 令和２年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止や緊急事態宣言で実施できなかったが、令和３年度から令和５年度に年１回実施済みである。				
事業目的	美幌高等学校へ、年１回給食を提供する。				
事業の対象	美幌高等学校の生徒				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 美高らーめんを給食として提供し生徒達の食育を推進した。 【現状と課題】 提供機会が限定される献立のため、実施回数が限られる。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	58	65	65	65	65	65
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	58	0	0	0	0	－
一般財源	0	65	65	65	65	65
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	58	65	65	65	65	65

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	美幌高等学校の生徒への給食の提供回数	目標	回	3	3	1	1	1
		実績	回	1	1	1		
		達成率	%	33.33	33.33	100		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	自ら育てた小麦を活用し給食として提供する事業であり、効果的な食育推進であることから妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	農業科の特色を生かす事業でもあり、魅力ある高校づくりとして有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	小中学校の給食提供日に合わせて実施しているため効率的であり、商品のＰＲにもなるため成果は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現予算額を維持することが適当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	原材料の収穫、製造を考慮すると提供回数が年１回が妥当ではあるが、さらに地元農産物や加工品も加えた新たな献立の提供なども今後検討が必要である。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	多文化共生推進事業	課・グループ名	社会教育課社会教育グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目 款	10	教育費	
施策(大)	０２　生涯学習の充実	項	04	社会教育費	
施策(中)	０３　生涯学習活動の促進	目	02	社会教育振興費	
施策(小)	０６　外国人に対する学習機会の提供	大事業	03	成人教育事業	
事業期間	終期未定	令和２年度 ～			
要求区分	継続	町長重点政策	○		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	町内に在住する外国人技能実習生等に日本文化や教養を学べる機会提供して、日本や美幌町の理解を深めるとともに町民との交流機会を創出する。 事業開始年度　令和2年度 対象事業所　7事業所（令和4年10月現在） （JAびほろ、クレードル食品、梅高組、一戸農場、勝本車輛、日農機美幌営業所、中鉄工所）				
事業目的	外国人技能実習生が単に労働だけではなく、美幌町で日本文化や教養に触れてもらい、美幌町に愛着を持って就労・滞在できるような生涯学習の機会を提供しながら支援を行う				
事業の対象	町内在住の外国人				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 外国人技能実習生が所属する企業と連携して、講座を設定し外国人実習生に日本文化への理解を深めてもらう予定。 【現状と課題】 企画実施の窓口として調整を図り、実施に向け取り進めている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	31	27	163	115	401	401
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	27	0	0	300	－
一般財源	31	0	163	115	101	401
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	31	27	163	115	401	401

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	実施回数	目標	事業	3	4	3	4	4
		実績	事業	1	2	1		
		達成率	%	33.33	50			
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	事業所においては通常業務の合間で本事業の準備等を行うことは困難であり、連絡調整等の業務を町が行うことは妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	対象が外国人技能実習生に限定されていること、また日本文化等の体験に事業内容を絞っていることからも有効性は高い。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町内在住者に協力・指導を依頼するケースがほとんどであり、最小限の経費で事業実施ができていることから効率性は高い。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 町長重点施策としての取組ではあるが、令和4年度に策定した第8次美幌町社会教育中期計画において多文化共生に関連する推進目標が盛り込まれたことや外国人技能実習生受入の事業所が拡大傾向にあることから、次年度以降も引き続き現状の取組を継続したい。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 対象事業所数は増加傾向であるが引き続き町内講師の活用による経費の節減等に努め、事業費総額は現状維持により事業実施を取り進めたい。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	外国人技能実習生の転出入に伴う受入企業等情報収集、日本文化以外の体験分野拡大（日本語学習等）			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	読書習慣推進事業	課・グループ名	図書館課図書館グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目 款	10	教育費	
施策(大)	０２　生涯学習の充実	予算科目 項	04	社会教育費	
施策(中)	０４　図書館、読書活動の充実	予算科目 目	05	図書館費	
施策(小)	０４　子どもの読書活動の推進、読書習慣の形成	予算科目 大事業	03	図書館活動促進事業	
事業期間	終期未定				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等		経費区分	政策的経費		
事業概要	小学校、保育園での読み聞かせボランティア団体を支援すると共に新たなボランティアの発掘養成のための講座を行う。また、「子ども未来絵本036事業」として幼少期からの読書習慣の推進と豊かな情操を育むことを目的として、ブックスタート事業（0歳対象）、ブックセカンド事業（3歳対象）、ブックサード事業（6歳対象）を継続していく。				
事業目的	図書館ボランティアの育成及び活動支援 子どもの読書活動の促進及び読書習慣の形成				
事業の対象	図書館ボランティア、町内の0・3・6歳児				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 令和5年度はボランティアの育成支援を目的とした講座を開催し、事業参加者のうち継続活動につながった方もおり進捗は順調。また子ども未来絵本036事業では対象となる年齢の子どもたちに読書の大切さや読み聞かせの良さを 【現状と課題】 継続活動につながった方はいるものの持続可能な活動としていくために、読み聞かせ等の担い手となるボランティアを継続して育成発掘していく必要がある。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	576	776	779	684	533	533
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	200	600	500	500	400	0
一般財源	376	176	279	184	133	533
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	576	776	779	684	533	533

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	配布人数	目標	人	350	295	295	260	260
		実績	人	272	298	245		
		達成率	%	77.71	101.01	83.05		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	法的には外部委託も可能だが、公共性に鑑み現段階では考えていない。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	事業終了後のアンケート等からも好評であり、子どもの読書習慣づくりを支える事業として有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	支援ボランティアや関係団体の協力を得て実施している。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが適当。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが適当。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	現在の活動について職員だけでは対応が困難なため、ボランティアの支援が必要不可欠だが、ボランティアの後継者不足が大きな課題となっているため、引き続き人材確保を図っていく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	博物館活動推進事業	課・グループ名	博物館課博物館グループ		
		評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画 基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目 款	10	教育費	
施策(大)	０２　生涯学習の充実	予算科目 項	04	社会教育費	
施策(中)	０５　博物館の充実	予算科目 目	06	博物館費	
施策(小)	０１　学校教育との連携の充実	予算科目 大事業	02	博物館活動推進事業	
事業期間	単年度				
要求区分	継続	町長重点政策	－		
根拠法令等	博物館法	経費区分	政策的経費		
事業概要	美幌町の自然や歴史、芸術を後世に伝えていくため、調査研究・資料収集を行い、収集した資料は適切に管理・保管する。また、これら資料を活用した、各種講座や特別展・企画展・ロビー展等の展示会を実施し、ふるさとの自然や歴史、芸術等ついて町民に広く紹介する。さらに、学校教育と連携した体験学習や博物館講座などの主催事業を積極的に進め、児童・生徒の知的好奇心の向上を目指す。加えて、これらの事業実施において、講師や協力員の支援を図り、内容を充実させる。				
事業目的	美幌町の自然や歴史、芸術等を後世に伝える。 美幌町の自然や歴史、芸術等について認識を広げ、郷土愛を醸成する。				
事業の対象	一般町民				
実施結果・現状と課題	【実施結果】 自然や歴史、芸術などに関する資料を収集した。これら資料を用いて展示や各種講座を開催。加えて学校教育と連携した体験授業の実践した。 【現状と課題】 年々、実施件数および内容が充実してきている。そのため、対応できる職員が不足してきていることから、ボランティアなどの協力が不可欠となっている。				
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容	

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	7,951	8,444	9,484	8,903	11,376	9,800
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	0	2,000	3,500	3,500	5,470	0
一般財源	7,951	6,444	5,984	5,403	5,906	9,800
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	7,951	8,444	9,484	8,903	11,376	9,800

（見込値）

３．評価

指標名		単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1 講座教室等	目標	回	140	140	140	140	140
	実績	回	103	138	180		
	達成率	%	73.57	98.57	128.57		
指標2	目標						
	実績						
	達成率	%					
指標3	目標						
	実績						
	達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	ふるさとの自然、歴史、芸術等の貴重さ・面白さを、多くの町民に理解してもらい、興味を抱いてもらうためには、不可欠。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	講座教室等の充実を図ることは、目標達成のため、非常に有効な手段である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	類似事業を整理（統合・廃止）したりすることで、経費の効率化を図っている。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 現状維持のまま実施することが妥当である。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持のまま実施することが妥当である。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	講座教室は今後も充実させる。また、教育旅行や企業研修の受け入れなどを充実させるため、課や組織を越えて連携を図っていく必要がある。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	未来のアーティスト応援事業		課・グループ名	社会教育課文化振興グループ		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０４　芸術、文化の振興		項	04	社会教育費
	施策(中)	０１　芸術文化活動の促進		目	02	社会教育振興費
	施策(小)	０１　芸術や文化活動団体の育成、援助		大事業	06	未来のアーティスト応援
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	芸術文化活動において高い技術と感性を有する青少年に、全道、全国及び国際大会出場経費の一部を補助することにより、本町の文化振興を担う人材を育成する。 【政策的経費】					
事業目的	芸術文化活動に係わる青少年への支援					
事業の対象	町民					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 全道大会補助2件、全国大会補助を6件行い863千円の補助を行った。各大会・コンクールへの参加負担の軽減を行うことができ、コンクールに挑戦することで、それぞれの技術の向上に寄与することができた。 【現状と課題】 実施1年目の事業であり、更なる周知を図り活用を進めて行く必要がある。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	0	862	1,000	1,119	1,000	1,000
国支出金	－	0	0	0	0	－
道支出金	－	0	0	0	0	－
地方債	－	0	0	0	0	－
その他	－	0	0	0	800	－
一般財源	0	862	1,000	1,119	200	1,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	0	862	1,000	1,119	1,000	1,000

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	補助件数	目標	件		10	10	10	10
		実績	件		8	8		
		達成率	%		80	80		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	今後の美幌町の文化を支える青少年の育成の取り組みとして役割をはたしている。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	補助金を支出し、コンクールに出場する機会を応援する現状の形が適当である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	現状として、補助の対象項目・対象者について適正である。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
	事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 目標件数に達しておらず、より効果的に補助を活用いただけるよう、周知を図る必要がある。申請については出来るだけ簡素に様式を作成しているが、申請希望を受けた時点で丁寧な説明が必要である。			現状維持
	予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状維持で取り組みを行い、要望が多くいただいたときに拡充の方向性を検討したい。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	SNS等も活用した周知を行い、利用を促進していく。				

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	スポーツ団体育成助成事業		課・グループ名	スポーツ振興課スポーツ振興グルー		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０５　スポーツの振興		項	05	保健体育費
	施策(中)	０１　生涯スポーツの振興		目	01	保健体育総務費
	施策(小)	０１　スポーツ振興の充実		大事業	01	スポーツ推進事業
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	－			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	本町のスポーツ振興のためにスポーツ協会、スポーツクラブBeet等関係団体への支援を行う。また、本町で開催されるスポーツ合宿に対する補助を行い、スポーツ団体の競技力の向上を図る。					
事業目的	団体の自立運営、強化及び合宿による競技力向上、町内経済への効果。					
事業の対象	スポーツ団体					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 団体との連絡調整、情報の共有。 【現状と課題】 青少年の優秀な活躍や活動を支えるため、選手・指導者における大会参加への負担を軽減すること。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	1,925	3,076	4,363	4,424	5,063	4,504
国支出金	0	0	0	0	0	－
道支出金	0	0	0	0	0	－
地方債	0	0	0	0	0	－
その他	0	0	0	0	0	－
一般財源	1,925	3,076	4,363	4,424	5,063	4,504
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	1,925	3,076	4,363	4,424	5,063	4,504

（見込値）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	補助団体数	目標	団体	3	3	3	3	3
		実績	団体	3	3	2		
		達成率	%	100	100	66.67		
指標2		目標						
		実績						
		達成率	%					
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	スポーツ活動を普及・振興を図るためには、各種スポーツ団体との連携・支援が不可欠であり、妥当である。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	高い	スポーツ団体の育成支援は、青少年の健全育成とスポーツ活動の活性化に繋がることから有効である。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町(教育委員会)及びスポーツ団体と連携し行うことにより適正な経費となっている。

次年度の取組の方向性・改善内容				評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 スポーツ団体の活動を維持継続するため補助事業を継続する。			現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現状どおりに事業を推進するための予算を維持する。	予算反映額（概　算）	0千円	
今後の改善点	指導者資格取得補助事業の活用拡大			

令和５年度　事務事業評価調書

１．事業内容

事務事業名	未来のアスリート応援事業		課・グループ名	スポーツ振興課スポーツ振興グルー		
			評価者名	教育部長　遠藤　明		
総合計画	基本目標	０５　夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり	予算科目	款	10	教育費
	施策(大)	０５　スポーツの振興		項	05	保健体育費
	施策(中)	０３　スポーツ活動の促進		目	01	保健体育総務費
	施策(小)	０２　競技スポーツの技術力向上		大事業	03	未来のアスリート応援事
事業期間	終期未定					
要求区分	継続	町長重点政策	○			
根拠法令等			経費区分	政策的経費		
事業概要	本町の更なるスポーツ振興のため、頑張る未来のアスリートを応援することにより、地域愛の醸成や町民満足度の向上に寄与するとともに、スポーツ競技への意欲と各個の競技力を向上させていく。					
事業目的	競技力の向上及びスポーツ振興。					
事業の対象	町民					
実施結果・現状と課題	【実施結果】 【現状と課題】 青少年の優秀な活躍や活動を支えるため、選手・指導者における活動への負担を軽減すること。					
事業進捗度	2　予定どおりに進んでおり、順調な進捗状況	進捗度３又は４の理由	－	左の具体的な内容		

２．年度別事業費

（単位：千円）

	令和03年度決算	令和04年度決算	令和05年度予算	令和05年度決算	令和06年度予算	令和07年度予算
事業費（千円）	5,097	6,750	6,600	7,291	7,000	7,000
国支出金	0	0	0	0	0	0
道支出金	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0
その他	4,597	920	1,000	750	3,600	1,000
一般財源	500	5,830	5,600	6,541	3,400	6,000
人件費（千円）	0	0	0	0	0	0
（1人当たり給与費　千円）（人工）	0	0	0	0	0	0
計（事業費＋人件費）（千円）	5,097	6,750	6,600	7,291	7,000	7,000

（見込額）

３．評価

指標名			単位	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
指標1	全国・全道大会等派遣補助団体数	目標	団体	25	25	25	25	25
		実績	団体	17	34	36		
		達成率	%	68	136	144		
指標2	育成強化奨励金補助件数	目標	人	19	19	19	19	19
		実績	人	17	20	9		
		達成率	%	89.47	105.26	47.37		
指標3		目標						
		実績						
		達成率	%					

項目	評価の視点	評価	理由
妥当性	目的や現状及び課題から、町で、今やるべきかどうかを評価する。	妥当	未来のアスリートを経済的な側面から支援する必要がある。
有効性	目標達成度から、手段や対象等が適切かどうかを評価する。	普通	経済的な側面から支援することにより、競技への意欲と競技力の向上に繋がる。
効率性	費用と成果のバランスはとれているか、現行の経費は適正かを評価する。	高い	町が行うことにより、公平で適正な経費となる。

次年度の取組の方向性・改善内容					評価結果
事業	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　休止・廃止 未来のアスリートを育成するための経済的な支援を継続する。				現状維持
予算	○　拡充　●　現状維持　○　縮小　○　皆減 現行制度を推進するため事業予算を維持する。	予算反映額（概　算）	0千円		
今後の改善点	強化指定区分等の見直しを図るため、美幌町育成強化選手奨励金交付要綱を改正する。				